

群 教 七	G01- 02
	平25.249集
	小・国語

# 伝統的な言語文化における 想像を広げて読む能力を育成する指導の工夫 — 音読による交流を核とした授業プランの活用を通して —

長期研修員 川端 美和

**キーワード** 【国語—小 伝統的な言語文化 読むこと 音読 交流 授業プラン】

## I 主題設定の理由

「知識基盤社会」の時代であると言われていた21世紀において、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」をはぐくむことがますます重要になっている。学校教育法では、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、それらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力、その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことが規定された。その基盤となるのが、「言葉の力」であり、各教科での言語活動を充実させるとともに、国語がその育成の中核を担うという旨が学習指導要領に示された。また、我が国の言語文化を享受し継承・発展させる態度を育てることや、国語が果たす役割や特質についてまとめた知識を身に付けることとともに、実際の言語活動において有機的に働くような能力を育てることに重点を置いた〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕が加えられ、領域を通して指導することが示されている。

「はばたく群馬の指導プラン」によると、群馬県における国語科の課題の一つは「文章の特徴や表現の仕方について考えること」である。その解決に向けて伸ばしたい資質・能力として、「行動・人物像を表す叙述や優れた叙述に気付き、想像を広げて読むこと」が挙げられている。

研究協力校における児童の実態としては、年間を通して「音読わくわくカード」を活用し、様々な詩や文章に触れてきた結果、リズムを味わいながら楽しく音読し、暗唱したり動作化したりするなど、作品の世界に浸り想像しながら読んでいる姿が見られる。一方、伝統的な言語文化に関しては、言葉そのものが難しいこと、リズムや語調が独特であることから、情景を思い浮かべたり登場人物の気持ちを考えたりすることに難しさがあり、想像を広げて読むには至っていない。また、教師側にも伝統的な言語文化の扱いについての不安や迷いから、音読させることや内容の大体をつかませることが中心となっており、作品価値に触れ、内容を読むこととの関連は図られていない課題がある。

しかし、その独特のリズムや長い年月を経て培われてきた美しい語調こそが時代を超えて親しまれている理由であり、読み取るべき「行動・人物像・優れた叙述」などの普遍的な価値を含んでいる。古典作品のもつ独特のリズムや響きを感じながら音読することは、その美しさや価値を感覚的に味わうことにつながり、「文章の特徴や表現の仕方」について考えさせる際に有効な学習である。教科書教材だけでなく、関連した様々な古典作品に出合わせることで、古典作品に興味をもって取り組み、その時代時代に思いを馳せて読むことができる。また、音読劇や音読発表などの音読による交流を位置付けることで、相手意識や目的意識をもって読むことができ、文章の特徴や表現の仕方についての考えをさらに深め、想像を広げて読むことができると考える。

以上のことから、伝統的な言語文化に焦点を当て、音読による交流を核とした授業プランを活用することを通して、想像を広げて読む能力を育成する指導の充実を図りたいと考え、本主題を設定した。

## II 研究のねらい

「読むこと」の学習において、古典作品を対象とし、想像を広げて読む能力を育成するために、音読による交流を核とした授業プランを活用することの有効性を明らかにする。

### Ⅲ 研究の見通し

#### 音読による交流を核とした授業プランの有効性

古典作品を教材とした「読むこと」の学習において、教材内容につながるのある異学年の単元をまとめ、単元を貫く言語活動に音読劇や音読発表などの音読による交流を核とした授業プランを活用することで、児童は相手意識や目的意識をもち、想像を広げて読むことができるであろう。

### Ⅳ 研究内容の概要

本研究は、小学校国語科の「読むこと」の学習において、古典作品を対象とし、想像を広げて読む能力の育成を目指したものである。「我が国の歴史の中で創造され、継承されてきた伝統的な言語文化に親しみ、継承・発展させる態度を育てる」ためには、低学年から伝統的な言語文化に触れ、作品の内容の大体をつかみ、想像を広げて読むことが不可欠である。そこで、教材の内容につながるのある異学年の単元をまとめ、「音読による交流」を核とした授業プランを活用することで、想像を広げて読む能力の育成を図っていこうと考えた。

「つかむ」過程では、「伝統的な言語文化との交流」を位置付け、リズムや響きを感じながら楽しく古典作品を音読し、心引かれた理由や面白いと思ったところを発表し合うことを通して、内容の大体をつかみ、古典作品に興味をもつことをねらう。「追究する」過程では、「友達との交流」を位置付け、相手意識や目的意識をもった音読発表の工夫を考え、作品世界に想像を広げて読むことをねらう。「まとめる」過程では、「異学年との交流」や「他者との交流」を位置付け、選んだ古典作品から読み取ったことを他者に表現することで、さらに読みを深めることをねらう。

本研究にかかわり、教材の内容のつながりに着目した「5年生・2年生プラン」と「2年生・1年生プラン」の授業プランを構想し、実践した。異学年との交流の場を設定することで、上学年は「まとめる」過程での下学年への音読発表に向けて、古典作品の内容を読み取り、想像を広げて読むことができる。「つかむ」過程で上学年の発表を聞いた下学年は、古典作品の世界に興味をもち、昔話や神話・伝承の作品世界に想像を広げて読むことができる。

本実践を通して、音読による交流を核とした授業プランの有用性を検証した。

### Ⅴ 研究のまとめ

#### 1 成果

- 教材の内容につながるのある異学年の単元をまとめ、交流を行ったことにより、交流学年の上学年の児童は、下学年に伝えるために、分からない言葉を調べたり、友達と交流したりしながら何度も音読し、作品世界に想像を広げながら読んでいく姿が見られた。そして、「内容が想像できた」「読み取ったことを表現できた」という達成感や有用感を味わうことができた。下学年の児童は、教材の内容につながるのある上学年の発表を聞くことで、古語や古典作品そのものへの興味を高め、「もっと読んでみよう」との思いをもつことができた。
- 単元を貫く言語活動として「音読による交流」を位置付けたことにより、相手意識や目的意識をもたせることができた。そのことが、古典作品の内容に興味をもったり、想像を広げながら読みを深めたりする姿につながった。伝統的な言語文化の学習においても、「音読による交流」を核としたことで想像を広げて読む能力を育てることができたと考える。

#### 2 課題

- 友達や他者との交流の際に、声の大きさや提示する資料など、内容よりも発表の仕方に目が向いてしまう児童が見られる場合がある。想像を広げて読むための手だてとして音読による交流を取り入れている授業プランであり、叙述に即した音読の工夫を深め合えるような支援を行うことを指導者側が明確に意識する必要がある。

## VI 研究の内容

### 1 基本的な考え方

#### (1) 伝統的な言語文化における想像を広げて読む能力について

「想像を広げて読む能力」とは、「言語を手掛かりとしながら、豊かに想像する力」である。古典作品の独特のリズムや長い年月を経て培われてきた美しい語調を感じ、言語を手掛かりとしながら、情景を思い浮かべたり、登場人物の視点で考えたりすることで、作品世界を十分に味わうことができる。また、優れた叙述を、自分を取り巻く現実や経験と照らし合わせて読むことで、登場人物の行動や人物像に迫ることができる。このように、古典作品の世界を豊かにかつ具体的に感じ取ったり、そこから感じ取った感想や感動を大切にしたりして読んでいく姿が、伝統的な言語文化における想像を広げて読む姿である。想像を広げて読むことで、より一層、作品のよさに気付くとともに、古典作品をより身近に感じることができる。

#### (2) 音読による交流を核とした授業について

音読とは、文字言語である文章を音声化して読むことである。

音読には、自分が理解しているかどうかを確認したり深めたりする働きと他の人が理解するのを助ける働きとがある。自分の声を自分で聞きながら音読をすることで、文字を確かめ言葉のリズムを味わうとともに、自分が文意を読み取っているかを把握する。さらに、音読を交流し合うことによって、互いの理解を確認したり深め合ったりできる。そして、一人一人の読み取りや感想などを共有し、評価し合うことができる(図1)。

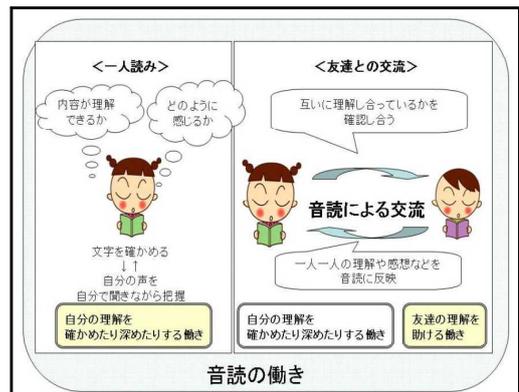


図1 音読の働き

低学年では、読み聞かせを聞いたり発表し合ったりすること、中学年では、情景を思い浮かべたりリズムを感じ取りながら音読や暗唱をしたりすること、高学年では、内容の大体を知り音読することなど、発達の段階に応じた音読を通して、伝統的な言語文化の美しさや楽しさを味わうことができる。さらに、音読劇や音読発表などの音読による友達や異学年との交流を位置付け、相手意識や目的意識をもって読ませることで、文章の特徴や表現の仕方についての考えを深め、想像を広げて読むことができるようになると思う。

このことから、古典作品を対象とし、音読による交流を核とした、想像を広げて読む能力を育成するための授業プランを活用するものである。

### 2 授業プランの概要

本研究で提案する授業プランとは、小学校の「読むこと」の学習において、古典作品を対象とし、想像を広げて読む能力の育成を図るためのものであり、「内容のつながり」「音読による交流」「異学年との交流」の三つを柱とした単元構想そのものである。

本研究に当たり、「5年生・2年生プラン」「2年生・1年生プラン」を構想し、実践した。二つのプランの単元計画は図2のように作成した。その実際は、6ページ及び7ページに示す。

#### (1) 内容のつながり

異学年に配置されている伝統的な言語文化を対象とした教材を、教材の内容のつながりでまとめて一つのプランとしたことを言う。「5年生・2年生プラン」では、

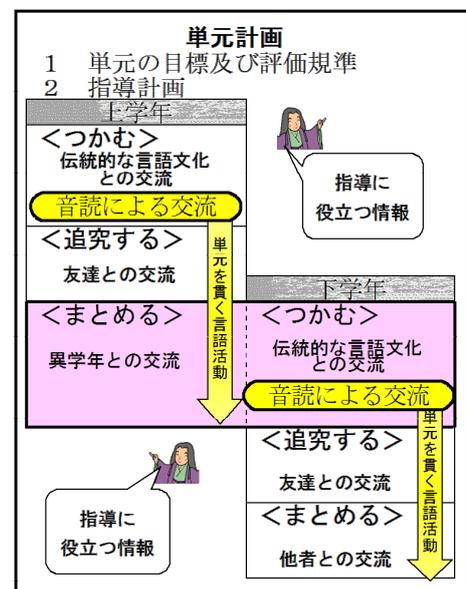


図2 単元計画

5年生の「竹取物語」「平家物語」などの古典作品と2年生の「かぐや姫」「耳なし芳一」「いなばの白うさぎ」などの昔話や神話・伝承を扱った単元とをつなげ、「2年生・1年生プラン」では、「三まいのおふだ」などの昔話や神話・伝承と1年生の昔話とをつなげた。

## (2) 音読による交流

単元を貫く言語活動に音読を位置付けたことを言う。「つかむ」過程では、楽しむ音読を、「追究する」過程では、相手意識や目的意識をもった音読を、「まとめる」過程では、他者へ伝える音読を設定した。

「つかむ」過程では、教師による音読や上学年の音読発表などで、教科書教材や関連教材に触れ、リズムや言葉の響きを感じて楽しく音読できるようにする。リズムに慣れたり、内容の大体をつかんだりするために、教師と一緒に音読したり、友達の好きなどころを全員で共有し一斉に音読したり、現代語訳を重ねながら読んだりするなど、音読方法を工夫する。様々な方法で音読を重ねることで、古典作品を身近に感じ、興味をもつことができるようになる。

「追究する」過程では、「まとめる」過程での他者へ伝える音読の前提となる相手意識や目的意識をもたせた上で、友達と交流しながら音読する方法を考えたり練習したりする。まず、「一人読み」で、読み取ったことやどう読みたいかを叙述に書き込む。その後、「グループ」「他グループ」の友達との交流を重ね、互いの叙述の理解を確認したり深めたりする。

「まとめる」過程では、音読劇、音読発表、群読などの他者へ伝える音読を設定する。補助的な映像資料や音声資料などを用い、読み取った内容を音読で他者に伝え、交流し合うことで、自他の考え方や感じ方の異同に気付いたり古人への思いを深めたりし、想像を広げて読むことができるようになる。

## (3) 異学年との交流

異学年間に交流場面を設定する。上学年の「まとめる」過程を、下学年の「つかむ」過程に位置付けたことを言う。上学年の児童は、下学年の児童に伝えるために、文章の特徴や表現の仕方についての考えを深め、想像を広げて読み、自分の感想や感動を伝えるための音読を工夫することができる。また、異学年との交流後、下学年の児童の感想や感動から、自分の読みをさらに深め、想像を広げていくことができる。聞き手である下学年の児童は、身近な存在である上学年の児童の他者へ伝える音読を聞くことで、古典作品に触れることの楽しさを実感し、「追究する」過程、「まとめる」過程へと学習を積み重ねていくことができる。

## 3 先行研究とのつながり

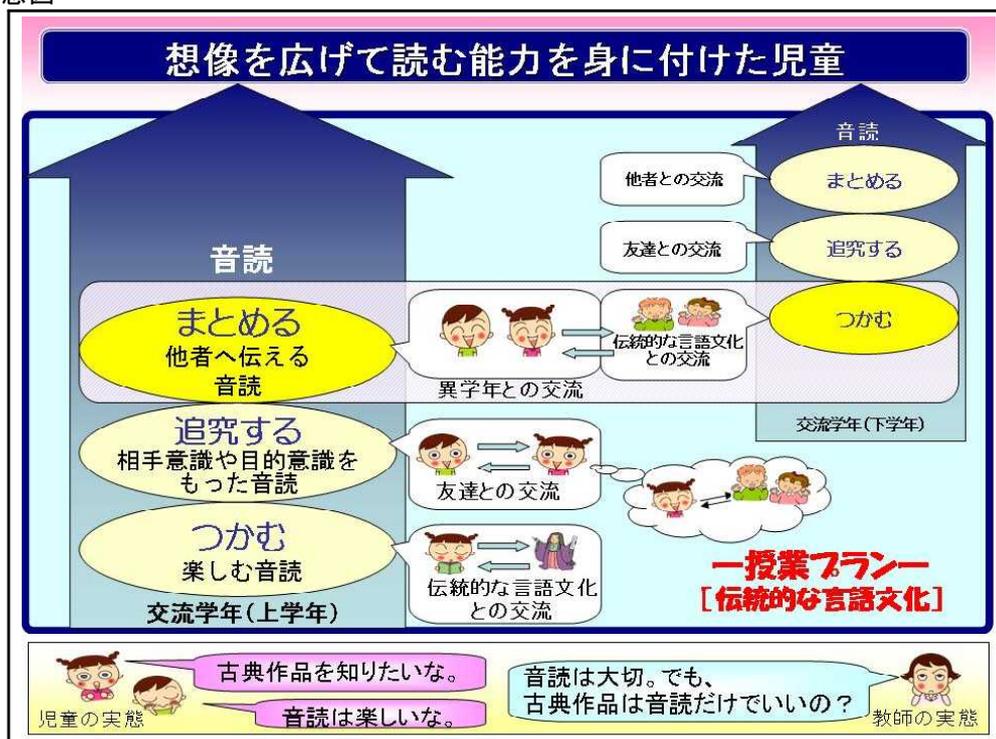
内藤(2011)は、「読むこと」の領域を通して伝統的な言語文化を扱う際に、教師は音読を重視しつつも、作品の時代背景やものの見方を理解させる活動を重視する傾向にあることを明らかにした。また、児童が取り組みたい学習活動は音読劇づくりや分からない語句の意味調べのような、内容を読み取ることにあると述べている。

リズムや響きを感じながら音読することは、伝統的な言語文化の美しさや価値を感覚的に味わうことにつながる。さらに、児童の求める「音読劇」などの言語活動を設定し、相手意識や目的意識をもって音読をさせることで、古典作品であっても、相手に伝えるために分からない語句を調べたり、叙述から想像を広げて読んだりすることができると思った。

また、藤本(2009)は、小・中学校の間で連携を図り、「作品の内容を読む」という一貫した視点により古典教育の在り方を考えていくことを提唱し、小学校低学年から、昔話や神話・伝承などを通じて伝統的な言語文化に親しんでいく基礎作りの大切さを述べている。

そこで、本研究では、作品内容に想像を広げていく、「読むこと」の領域を通じた古典教育に取り組むこととした。音読劇や音読発表などの音読による交流を位置付け、相手意識や目的意識をもって音読することを手だてとして、想像を広げて読む能力を身に付けられる授業プランを構想し、活用することを提案する。

#### 4 研究構想図



### VII 実践の計画と方法

#### 1 実践授業の概要

##### (1) 5年生・2年生プラン

対象	研究協力校 小学校第5学年 25名 第2学年 20名
実践期間	平成25年10月9日～10月21日 第5学年：4時間 第2学年：3時間
単元名	第5学年 声に出して楽しもう 「今も昔も」 第2学年 きいてたのしもう 「いなばの白うさぎ」
単元の目標	第5学年 古典作品に興味をもち、優れた叙述に着目しながら、登場人物や作者の心情、場面について想像して読むことができる。 第2学年 昔話や神話・伝承に興味をもち、好きな場面を想像しながら読んだり、友達に紹介したりすることができる。

##### (2) 2年生・1年生プラン

対象	研究協力校 小学校第2学年 20名 第1学年 24名
実践期間	平成25年10月21日～11月11日 第2学年：4時間 第1学年：3時間
単元名	第2学年 聞いてたのしもう 「三まいのおふだ」 第1学年 「むかしばなしがいっぱい」
単元の目標	第2学年 登場人物の行動や場面の様子を想像しながら読み、好きな昔話を1年生に音読劇などで発表することができる。 第1学年 昔話に興味をもち、好きな場面の様子を登場人物の行動を中心に想像しながら読むことができる。

#### 2 検証計画

小学校国語科「読むこと」の学習において伝統的な言語文化である古典作品を対象とし、音読による交流を核とした授業プランを活用する。授業プランの実践により、児童の想像を広げて読む能力を育成することができたかを検証する。

#### 3 抽出児童

##### (1) 5年生・2年生プラン

###### ○ 抽出児童A

事前アンケートでは、俳句「雀の子そこのけそこのけ御馬が通る」の「そこのけそこのけ」の面白さに興味をもった。授業中も、感じたことや考えたことを「つぶやき」で表現している姿が多く見られるが、いずれも直感的で他者に伝えるには至らない。なぜ面白いと思ったかなど、自

分が感じたことや考えたことについて深く考えた上で友達と交流することで、友達との異同に気づき、読みを深めさせたい。

○ 抽出児童B

事前アンケートでは、俳句「名月や池をめぐりて夜もすがら」を「月がきれいに池に映っているのが目に浮かんできれいだから」と叙述から自分なりの読みができる。読み取ったことや想像したことを積極的に発表したり、友達の感じ方や考え方の違いも受け入れたりすることで、読みを深めさせたい。

(2) 2年生・1年生プラン

○ 抽出児童C

事前アンケートでは、読書はあまり好きではなく、「知っている昔話はない」と回答している。1年生への発表に向けて友達と交流することで、昔話の面白さを味わい、登場人物の心情や場面の様子を想像しながら読めるようにさせたい。

4 評価規準・指導計画

(1) 5年生・2年生プラン（第5学年 全4時間、第2学年 全3時間）

	5学年	2学年
評価規準	<p>関 古典作品に興味をもち、意欲的に読もうとしている。</p> <p>読 登場人物の心情や場面についての描写をとらえ、優れた描写に着目しながら想像を広げて読んでいる。</p> <p>言 古典作品の内容の大体を知り、情景を思い浮かべたり、リズムを感じたりしながら音読している。</p>	<p>関 昔話や神話・伝承に興味をもち、意欲的に読もうとしている。</p> <p>読 好きな場面について、語のまとまりや言葉の響きなどに気を付け、想像を広げながら読んでいる。</p> <p>言 伝統的な言語文化に触れ、話の面白さや独特の語り口調、言い回しなどに気づき、親しんでいる。</p>

**5学年 4時間計画**

つかむ：1時間  
昔の人が心引かれ、読みついできた古典作品を音読しよう  
○教材文を聞き、音読する。  
○心引かれた古典作品とその理由を発表し合う。

**心引かれた古典作品を2年生に音読発表しよう**

※リズムや響きを感じることができるよう、音読を取り入れる。

追究する：2時間  
2年生への音読発表のための工夫を考えよう  
心引かれたところが2年生に伝わるように工夫しよう  
○友達と交流しながら音読を工夫する。  
※2年生への音読発表を設定し、相手意識や目的意識をもてるようにする。  
※友達との交流を位置付け、自他の考え方や感じ方を比較し、想像を広げて読むことができるようにする。

まとめる：1時間  
読み取ったことが伝わるように音読発表をしよう  
○2年生に音読発表をし、お話について交流する。  
※2年生との交流を位置付け、自他の考え方や感じ方の異同に気付いたり、読みを深めたりできるようにする。

- ：学習活動
- ※：研究上の手だて
- 太枠：異学年の交流活動



伝統的な言語文化の学習に音読は不可欠です。まずは、教師の後について読むことで、独特の響きやリズム、歴史的仮名遣いに慣れることができます。そのあと、「句読点読み」「句点読み」「たけのご読み」「リレー読み」などの様々な形態で楽しく音読することで、すらすら読めるようになります。古典の内容の大体をつかむためには、原文と現代語訳を交互に読む「古今読み」も効果的です。

5年生の音読発表直後、昔話や神話・伝承の本を集めた図書コーナーを紹介すると、2年生は喜んで手にとって読み始めます。

学校図書館の他に、県立図書館や市町村の図書館の団体貸し出しを利用すると、図書コーナーを充実させることができます。

**2学年 3時間計画**

つかむ：1時間  
5年生の音読発表を聞いて、感想を発表しよう  
○5年生の音読発表を聞き、お話について交流する。

**お気に入りの昔話を友達に紹介しよう**

※古典作品を身近に感じることができるよう、5年生との交流を位置付ける。

追究する：1時間  
お気に入りの昔話や神話・伝承を見付けよう  
○教材文の読み聞かせを聞く。  
○好きな昔話の好きな場面を選び、気に入った理由が伝わるように音読を工夫する。  
※相手意識や目的意識をもてるよう、友達に発表するという他者へ伝える音読を設定する。  
※「昔話や神話・伝承の本コーナー」を設置し、お気に入りの本を見付けられるようにする。

まとめる：1時間  
プチ音読発表会をしよう  
○プチ音読発表会で隣の席の友達に音読発表をし、お話について交流する。  
※友達との交流を位置付け、自他の考え方や感じ方の異同に気付いたり、読みを深めたりできるようにする。



(2) 2年生・1年生プラン（第2学年 全4時間、第1学年 全4時間）

	2 学年	1 学年
評価規準	<p>音読の楽しさに気付いたり、音読で自分の思いを表現したりしようとしている。</p> <p>場面の様子を音読で表すという目的をもって、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読んでいる。</p> <p>独特の語り口調や言い回しに気付き、音読している。</p>	<p>昔話に興味をもち、意欲的に読もうとしている。</p> <p>好きな場面について、登場人物の行動を中心に、想像を広げながら読んでいる。</p> <p>話の展開の面白さに気付き、音読発表を聞いたり音読したりしている。</p>

**2 学年 4 時間計画**

**つかむ：1 時間**  
面白いと思ったところを音読しよう  
 ○「三まいのおふだ」を聞いて、面白いと思ったところを発表し合い、音読し合う。

**お気に入りの昔話を1年生に音読発表しよう**

※教科書の挿絵や紙芝居を活用し、興味をもつことができるようにする。  
 ※相手意識や目的意識をもてるよう、1年生へ伝える音読を設定する。

**追究する：2 時間**  
1年生に伝えたい昔語を選ぼう  
 ○1年生の教科書に紹介されている昔話の中から好きな作品を選ぶ。  
 ※手に取って選べるように「昔話の本コーナー」を設置する。  
昔話のよさが1年生に伝わるように工夫しよう  
 ○1年生に伝わるように音読を工夫する。  
 ※音読劇やペープサートなどの他者へ伝える音読を取り入れて発表できるように導く。

**まとめる：1 時間**  
お気に入りの昔話を1年生に音読で発表しよう  
 ○発表し、1年生とお話について交流する。  
 ※1年生との交流を位置付け、自他の考え方や感じ方の異同に気付いたり、読みを深めたりできるようにする。

○：学習活動  
 ※：指導上の留意点  
 太枠：異学年の交流活動



**「他者へ伝える音読」の活動例**

内容を音声表現で伝えることをめあてとさせながら、以下のような活動を選択させます。

○音読劇	○ペープサート
○役割読み	○人形劇
○紙芝居	○群読

**1 学年 4 時間計画**

**つかむ：1 時間**  
2年生の音読発表を聞いて、感想を発表しよう  
 ○お話を聞き、2年生とお話について交流する。  
 ○「おはなしにつき」を書く。

**お気に入りの昔話を友達に紹介しよう**

※古典を身近に感じることができるよう、2年生との交流を位置付ける。

**追究する：2 時間**  
昔話を読んで、「おはなしにつき」を書こう  
 ○教科書の挿絵から、知っている昔話を見付け発表し合う。  
 ○昔話を読み、「おはなしにつき」を書く。  
 ※教科書の挿絵や絵本・紙芝居を活用し、興味をもつことができるようにする。  
 ※児童の発表した話を読み聞かせたり一緒に読んだりして、読みたいという気持ちをもてるようにする。  
友達に紹介する昔話を選び、音読の練習をしよう  
 ○「おはなしにつき」の中から、友達に紹介する昔話を選ぶ。  
 ※手に取って選べるように「昔話の本コーナー」を設置する。

**まとめる：1 時間**  
お気に入りの昔話をクラスの友達に紹介しよう  
 ○発表し、友達とお話について交流する。  
 ※友達との交流を位置付け、自他の考え方や感じ方の異同に気付いたり、読みを深めたりできるようにする。



聞き手である1年生を2年生と同数のグループに編制し、各グループごとに発表を行うことで、1年生は臨場感を味わい、昔話の世界に引き込まれていきます。

2年生は少人数を相手にするので、のびのびと発表することができます。また、1年生の反応を目の前に見ることができ、自分の読みを再確認したり、深めたりすることができます。

Ⅷ 実践の結果と考察

1 5年生・2年生プラン

5年生と2年生の二学年の内容のまとまりを一つの単元とし、異学年との交流を取り入れたプランを実践した。

(1) 5年生

伝統的な言語文化である古典作品「竹取物語」「枕草子」「平家物語」を取り上げた。いずれも、作品の冒頭部分が教科書（光村図書5年）に掲載されており、多くの人に知られている親しみやすい作品である。しかし、初めて古典作品に触れる児童にとって、言葉そのものが難しく、リズムや語調が独特であることから、情景を思い浮かべたり登場人物の気持ちを考えたりすることに難しさがある。そこで、想像を広げて読むことをねらいとして作成した授業プランに基づいた実践を行った。

① 「つかむ」過程

伝統的な言語文化との交流を位置付けた「つかむ」過程では、三つの古典作品をリズムや響きを感じながら楽しく音読し、心引かれた作品を選ぶ。その理由を発表し合うことを通して、内容の大体をつかみ、古典作品に興味をもつことのできる児童の姿を求めて、以下のような手だてを講じた（図3）。

絵の提示

三つの古典作品にかかわる教科書の挿絵と絵巻物の絵6枚を黒板に提示し、どの古典作品と関連しているかを考えさせながら教師が音読をする。その際、同じ絵をカラー印刷したワークシートを配付することで、絵の細かな部分にも目を向けられるようにする。

作品のいずれかと絵とを結び付けながら教師の音読を聞く際に、視覚資料から情報を補わせることが、リズムや響き、作品の内容や情景などを比べながら聞くことにつながる。また、6枚の絵を当てはめながら、自分の考えを発表したり友達の発表を聞いたりすることができ、古典作品への関心を高めることができると考える。

現代語訳の確認

教師による音読を聞かせながら教科書に示されている現代語訳を黙読させる。その後、教師の後について本文を読んだり、交互に句読点読みをしたり、本文と現代語訳とを交互に音読したりする。古典作品の内容や背景などについては、児童から意味の分からない言葉を引き出したり、古典作品に触れたことのある児童を活躍させたりしながらつかませていく。その際、現代語訳を手掛かりとして古語は類推させていく。また、「あやしがりて」「いと」「さらなり」などの気持ちの表れる言葉については、現代語訳を確認した後、実際の音読による表現を工夫させる。

音声言語と文字言語とを合わせて読むことで、古典作品のもつ独特の響きと表記とを関連させることができる。また、様々な方法での音読を重ねることで、古典作品のもつ独特のリズムに慣れたり、本文とそのおおよその意味とをつなげたりすることができる。このように、本文と現代語訳をつなげ、音読の表現を工夫させていくことにより、内容の大体をつかみ、楽しく読む姿が見られるようになると思う。

以上のような手だてで、三つの古典作品を比較しながら読み聞かせを聞いたり、音読をしたりすることで、内容の大体をつかみ、古典作品に興味をもつことができると考えられる。



図3 「つかむ」過程 手だて・児童の反応

「つかむ」過程における伝統的な言語文化との交流によって、児童が心引かれた古典作品（図4）とその理由、及び、児童のワークシートの記述（表1）は以下のとおりである。

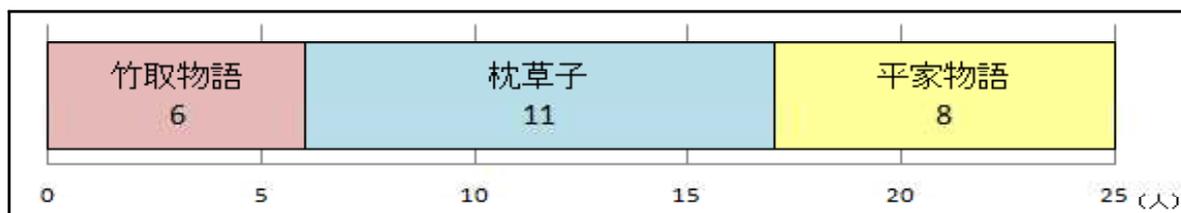


図4 児童が心引かれた古典作品

表1 「つかむ」過程において具現化した手だて

手だて	心引かれた理由（結果）	児童のワークシートの記述
絵の提示 ・ 現代語訳の確認	竹取物語 	〈内容〉 ・一番信じられない話だから。 ・「いとうつくしうてゐたり」ぐらいかわいらしい女の子がどのように育っていくか楽しみだから。 〈絵〉 ・小さいころから知っているから ・「かぐや姫」と聞いて面白そうだなと思ったから。
	枕草子 	〈内容〉 ・蛍の光がきれいに輝いていることが想像できるから。 ・春のすべてが好き、夏のすべてが好きということが分かりやすく伝わってくるから。 〈響き〉 ・とても穏やかな感じがしていいと思ったから。 ・読んでいるときれいさが伝わってくる。「たなびきたる」が特にいい。
	平家物語 	〈内容〉 ・いくさのことを書いていて、かっこいいと思ったから。 〈リズム〉 ・リズムがいいから。 〈表記〉 ・最初の4行の漢字がかっこいい。



図5 記述の様子

抽出児童AとBは、心引かれた古典作品に「枕草子」を選んだ。Aは、「女の人の眉の太さと顔の白さが面白い」と理由を記述し、授業後の感想に、「古典は楽しい。特に、女の人の顔が面白い」と記述した（図5）。Aは、楽しく音読する様子を見せたが、内容より絵の面白さに興味をもったことが分かる。Bは、「春夏のすてきなところやいいところが書いてある」と理由を記述し、授業後の感想に、「2年生に発表するとき、気持ちを込めて上手に読みたい」と記述した。このことからAは、「枕草子」の内容の大体をつかみ、興味をもつことができたことが分かる。

上述のような結果から、「つかむ」過程における児童の姿を、次のように考察する。

- 「絵の提示」により、時代背景の違いを感じたり、既知の昔話「かぐや姫」と結び付いたりし、古典作品に興味をもつことができたと考えられる。
- 「現代語訳の確認」により、教師が難語句の解説を行わなくても内容の大体をつかむことができる。また、古典の表記に引かれたり、叙述の一部から言葉の響きやリズムを感得したりして、情景を想像できる児童がいる。
- 授業プランの「つかむ」過程に、三つの古典作品を同時に扱うこと、「絵の提示」「現代語訳の確認」の手だてを取り入れて音読することで、児童は、心引かれた作品を自分なりの理由をもって選ぶことができ、古典に興味をもつことができたと考えられる。

## ② 「追究する」過程

「追究する」過程では、2年生に伝える音読発表の工夫を考え、作品世界に想像を広げて読むこ



表2から、「追究する」過程の「一人読み」の場面における抽出児童AとBを含めた全体の様子を以下のように考察する。

- 自分の「心引かれた理由」はどの叙述に基づいていたのかを、本文を読みながら考えることができた。
- 抽出児童Aのように、前時のワークシートの「心引かれた理由」に加え、新たに、「一人読み」で読み取ったことや想像したことを記述することができた。本文を何度も音読することで読みを深めた姿が見える。

表3 「グループ内での交流」の場面

<p>手だて</p> <p>読み取ったことの交流</p> <p>グループワークシートと児童の姿(結果)</p>	<p>抽出児童AとBのグループの交流</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>(中略)</p> <p>ほのかにうち光りて行くもをかし。</p> <p>蛍が少しずつ移っているのだな</p> <p>また、ただ一つ二つなど、</p> <p>一つ二つがまとめて書いてあるからおもしろい</p> <p>蛍が飛び立つような感じで書いてあるからいい</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>(中略)</p> <p>やみもなほ、蛍の多く飛びちがひたる。</p> <p>蛍がたくさん飛んでいるのが想像できてすき</p> <p>蛍がたくさん飛んでいるのが想像できてすき</p> <p>想像するととてもきれい</p> <p>春はあけぼの。</p> <p>本当に少し明るくなっているんだなって思う。きれいな感じが想像できる</p> <p>少しずつ明るくなるところがよくわかっていい</p> </div> </div> <p>やうやう白くなりゆく山ぎは、すこしあかりて、</p> <p>抽出児童Aは「やみもなほ、蛍の多く飛びちがひたる。また、ただ一つ二つなど」のところで、友達の発表から「辺りの暗さ」「蛍が多く飛んでいる様子」「蛍が少しずつ移っていく様子」に気付いた。授業後の感想に「友達の意見を聞いて、いいところをたくさん見付けられました」と記入している。</p> <p>抽出児童Bは「すこしあかりて」の部分でのグループの友達の「少しずつ明るくなるところがよく分かっていい」「本当に少し明るくなっているんだなって思う。きれいな感じが想像できる」という発表を聞き、「すこし」に着目した。「弱く読もう」と主張するとともに、「すこし」と「あかりて」の間を空けて読むことにも賛成した。授業後の感想に「他の人の音読記号を知ることができてよかった」と記述している(図7)。</p>  <p>図7 同じグループでの交流</p>
---	--

表3から、「追究する」過程の「グループ内での交流」場面における抽出児童AとBを含めた全体の様子を以下のように考察する。

- 授業後の感想に、「他の人の音読記号を知った」と記述しているように、友達の感じ方や表現の仕方を自分の読みと比較することができた。
  - 別の叙述から同じことを感じた友達や、同じ叙述から違うことを感じた友達と交流することにより、作品全体に再度目を向けて読み取り、自分の感じたことを深めていく姿が見られた。
  - 「枕草子のいいところをたくさん見付けられた」と記述しているように、友達との交流により心引かれた作品のよさをさらに感じる事ができた。
- このように、同じグループの友達と読み取ったことの交流をし、グループワークシート(図8)を完成することを通して、友達の感じ方や表現の仕方を取り入れ、想像を広げることができた。

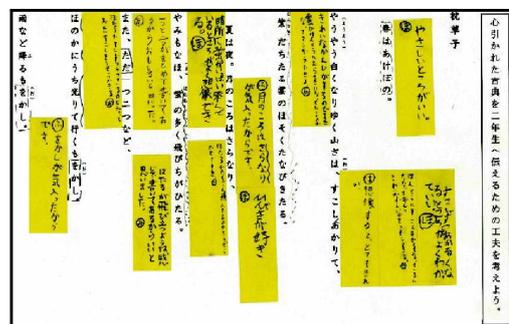


図8 グループワークシート

表4 「他グループとの交流」の場面

手だて	枕草子を選んだグループ同士の交流の様子（結果）			
自他との考え方や感じ方の比較	他グループから抽出児童AとBのグループへ		抽出児童AとBのグループから他グループへ	
	<p>もう少し声を大きくした方が、2年生が聞きやすいと思う</p> <p>クイズがあるのは、2年生が内容を楽しく思っている</p>	<p>全員がゆっくりお話を読んでいたので聞きやすかった</p> <p>（抽出児童A）</p>	<p>絵本でやるのはいいけど、もう少しはっきり言った方がいいと思う</p> <p>（抽出児童B）</p>	<p>「クイズがあるのは2年生が内容を楽しく思っている」とのアドバイスを受けた。クイズを取り入れることに消極的だった抽出児童Aは、このアドバイスをきっかけにクイズの出し方を考え始めた。抽出児童Bは、クイズを出す役を務めることとなった。</p> <p>声の大きさの指摘を受け、速さだけでなく、声の大きさに気を付けながら、練習をすることができた。抽出児童Aは、異学年との交流後の感想に「いつもより声を大きくした」との自己評価をしている。</p>

表4から、「追究する」過程の「他グループとの交流」場面における抽出児童AとBを含めた全体の様子を以下のように考察する。

- 発表の仕方についての指摘を受けて、相手意識や目的意識を再確認することができた。
- 読み取ってきたことが、相手に伝わるように表現されているかを見直すことができた。
- 自分たちのグループの音読に自信をもつことができ、発表への意欲を高めることができた。
- 音読の工夫や発表の工夫を見直す際に、叙述に戻って読み直すことで、内容の理解を深め、想像を広げることができた。
- 声の大きさや提示する資料など、読み取ったことの内容よりも発表の仕方に目が向く児童が見られた。

### ③ 「まとめる」過程（異学年との交流）

「まとめる」過程では、異学年との交流を通して、選んだ古典作品から読み取ったことを他者に伝え、読みを深めようとする児童の姿を求めて、以下のような手だてを講じた。

#### 「他者との交流」の振り返り

異学年との交流後、「他者との交流」場面を振り返らせることで、自他の考え方や感じ方の異同に気付き、想像を広げて読んだり、古典作品への思いを深めたりすることができる。

「まとめる」過程における異学年との交流によって、児童が想像を広げて読んだり、古典作品への思いを深めたりした姿は、以下のとおりである（表5）。

表5 「まとめる」過程における児童の様子

手だて	抽出児童A	抽出児童B
ワークシートと児童の姿（結果）	<p>「枕草子」は、春と夏と秋と冬のいいところが語られていて、想像するときにいいだということが2年生に伝わるように、いつもより気持ちよく読んで読んでみた。</p> <p>（抽出児童A）</p>	<p>「枕草子」は、春と夏と秋と冬のいいところが語られていて、想像するときにいいだということが2年生に伝わるように、いつもより気持ちよく読んで読んでみた。</p> <p>（抽出児童B）</p>
「他者との交流」の振り返り	<p>ワークシートと児童の姿（結果）</p>	<p>ワークシートと児童の姿（結果）</p>

上述のような結果から、抽出児童AとBを含めた全体の様子を以下のように考察する。

- 友達との交流や2年生との交流を取り入れて学習を進めた結果、自分の心引かれた古典作品

への興味を高め、作品世界に想像を広げて読むことができた。

- 2年生への音読発表という相手意識や目的意識をもって、読み取りを深めてきたことが分かる。

(2) 2年生

伝統的な言語文化である古典作品「いなばの白うさぎ」を取り上げた(光村図書2年上)。「つかむ」過程に5年生の古典作品の音読発表を取り入れることで、児童は、昔話や神話・伝承に興味をもつことができる。そこで、自分の選んだ作品のよさを友達へ音読発表で伝えるという単元を貫く言語活動を設定し、想像を広げて読むことをねらいとして実践を行った。

① 「つかむ」過程

5年生の「まとめる」過程からつなげる異学年との交流を設定するとともに、単元を貫く言語活動に友達への音読発表を位置付けた(図9)。



図9 5年「まとめる」過程 2年「つかむ過程」

「つかむ」過程における、5年生の古典作品の音読発表を聞いた後の児童の感想は、以下の通りである(表6)。

表6 「つかむ」過程における児童の感想

2年生の感想(単元の学習後に書いた「5年生への手紙」より)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・5年生が何冊も読んでくれて、面白かった。</li> <li>・分からないところがあったけど、面白かった。</li> <li>・琵琶を弾いていたおじいさんが面白い。</li> <li>・昔の言葉って、今の言葉と違うんだと思った。</li> <li>・「をかし」など、難しい言葉の解説が入っていたので分かりやすかった。</li> <li>・竹取物語は、かぐや姫がおじいさんとおばあさんと離れて暮らすのがさびしいお話でした。</li> <li>・竹から出てくる女の子がかわいかった。</li> </ul>

上述のような結果から、以下のように考察する。

- 5年生の音読発表を聞いて、それぞれが心引かれた古典作品をもつことができた。作品の雰囲気をつかんだり、リズムや響きを感じたり、内容への興味をもったりすることができた。「昔話や神話・伝承の本を集めた図書コーナー」を紹介すると、「昔話をもっと読みたい」「自分たちも音読発表をしたい」などの声が上がった。そこで、「プチ音読発表会をしよう」という単元の課題をつかませ、相手意識や目的意識をもって学習を進められるようにした。
- 言葉そのものに注目する児童が見られた。独特な語調や古語への気付きを昔話や神話・伝承の学習へとつなげていけると考える。

② 「追究する」過程

「昔話や神話・伝承の本を集めた図書コーナー」から興味をもった本を選んで読み、「一番好きな場面」「好きな理由」を「おすすめカード」に記入した(図10)。その後、「おすすめカード」に記入した本の中から一冊を選び、「プチ音読発表会」に向けて、気に入った場面の音読練習を行った。



図10 「おすすめカード」

「追究する」過程における児童の姿から、以下のように考察する。

- 児童全員が「昔話や神話・伝承の本を集めた図書コーナー」から読みたい作品を選び、「おすすめカード」に好きな場面とその理由を記入することができた。5年生の音読発表により、「昔話を読みたい」「友達に紹介したい」という気持ちをもったためと考えられる。
- ほとんどの児童が、「好きな理由」に本を読んで思ったことや想像したことを記述することができた。5年生との交流によって、内容の面白さに目を向けることができたと考えられる。
- 本を読むのに時間がかかる児童、「好きな場面」「好きな理由」を分けて書くことに抵抗を感じる児童には、「おすすめカード」に記入する際の支援が必要である。

### ③ 「まとめる」過程

隣の席の友達に気に入った本を見せながら、好きな場面とその理由を話した後、好きな場面の音読発表をする「プチ音読発表会」を行った(図11)。その後、紹介した絵本について交流をした。知っている本の紹介の場合には、「ぼくだったら、こっちの場面が好きだな」など本の内容について話したり、初めての本の場合には、紹介された部分以外の場所を一緒に読んだりしている姿が見られた。単元の学習終了後に書いた5年生への手紙には、「分からない言葉の解説があって分かりやすかった。ぼくも好きな理由を紹介できた」など、5年生との交流が単元の最後まで有効に働いていたことが分かる(図12)。



図11 「プチ音読発表会」の様子

「まとめる」過程の児童の姿から、以下のように考察する。

- 5年生の音読発表を「つかむ」過程に位置付け、プチ音読発表会を単元を貫く言語活動に設定したことで、相手意識や目的意識をもって学習できた。同時に「5年生みたいに友達に音読発表をしたい」という具体的な見通しをもつことができた。
- 「おすすめカード」を基に、「好きな場面」「好きな理由」を紹介してから音読発表を行ったことで、友達の音読発表に興味をもって聞くことができた。

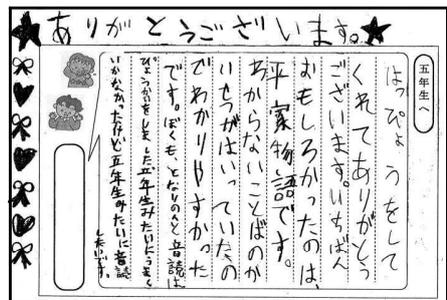


図12 「5年生への手紙」

## 2 2年生・1年生プラン

2年生と1年生の二学年の内容のまとまりを一つの単元とし、異学年との交流を取り入れたプランを実践した。

### (1) 2年生

伝統的な言語文化である昔話「三まいのおふだ」を取り上げた。教科書(光村図書2年下)には、場面ごとの挿絵が掲載されており、児童は挿絵を見ながら昔話を聞くことで、登場人物の心情や場面の面白さに想像を広げることができる。

「つかむ」過程では、教科書の挿絵を見ながら「三まいのおふだ」の教師の音読を聞き、場面ごとに面白いと思ったところを発表し、音読し合った。「5年生・2年生プラン」で昔話の面白さに触れ、友達に音読発表している2年生は、誰かに伝えたいという思いをもっている。そこで、「お気に入りの昔話を1年生に音読で発表しよう」という単元を貫く言語活動を設定した。

「追究する」過程では、「昔話を集めた図書コーナー」から、本を持ち寄り、グループごとに1年生に伝える本の選定を行った。相手意識を明確にするため、また、1年生の学習へつなげるため、「昔話がいっぱい」(光村図書1年下)に掲載されている昔話の中から選ぶこととした。最初は、自分の好きな本を持ち寄り、その魅力を伝えていたが、交流するうちに、「1年生には紙芝居があるといいと思う」「劇をすると分かりやすいよ」「分担して読むといいと思う」など、相手意識を明確にもって本の選定を行うことができた。各グループが選んだ本と1年生に伝えるための工夫は、

右のとおりである（表7）。

抽出児童Cのグループは「三年ねたろう」を選んだ。誰がどの役をやるか、誰がどの部分を読むか、「わあい、わあい、なまけもの」という台詞をどのように言えば、はやし立てているように聞こえるかなど、登場人物の気持ちや場面の様子が伝わるような工夫をたくさん考えていた。

「まとめる」過程は、1年生の「つかむ」過程へつなげる異学年との交流場面である。聞き手である1年生を2年生と同数のグループに編制し、各グループごとに音読発表を行った。音楽を合図に1年生が移動し、複数回の発表を行った（図13）。抽出児童Cは、「ねたろう」をはやし立てている村の子どもの気持ちを台詞に込め、振り付けを交えながら、音読劇での発表を行うことができた（図14）。

「5年生・2年生プラン」で学習した2年生は、このプランでは交流学年の上学年として、昔話の面白さを1年生に生き生きと伝えることができた。

## (2) 1年生

教科書教材「むかしばなしがいっぱい」（光村図書1年下）を取り上げた。昔話が見開きページの中に絵で紹介されている。

「つかむ」過程は、2年生の「まとめる」過程からつなげた異学年との交流を設定した。また、単元を貫く言語活動に友達への音読発表を位置付けた。2年生に音読してもらった昔話に「自分で読んでみたい」との感想をもつとともに、「ほかの昔話も読んでみたい」という意欲をもつことができた。「追究する」過程では、「昔話を集めた図書コーナー」から好きな本を選ぶことができた。一人で読むだけでなく、友達と一緒に読んだり、読んであげたりして、交流する姿も見られた。「まとめる」過程では、一番のおすすめの本を、内容を根拠にクラスの友達に紹介することができた。

このように、1年生は昔話に興味をもち、好きな場面の様子を想像を広げて読むことができた。「つかむ」過程での2年生との交流が有効であったと言える。

表7 選定した本と伝える工夫

選定した本	伝える工夫
三年ねたろう	音読劇
かちかち山	紙芝居 役割読み 要約
花さかじいさん	ペープサート
わらしべ長者	紙芝居 役割読み
さるかに合戦	役割読み 動作化

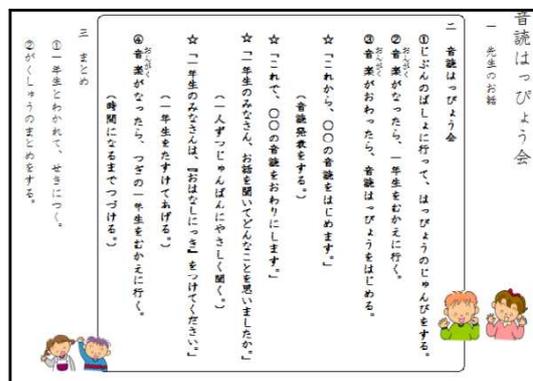


図13 1年生との交流 音読発表の流れ



図14 音読劇「三年ねたろう」

## IX 研究の成果と課題

### 1 成果

○ 音読発表では、読み取ってきたことを工夫して伝えている姿や心引かれた古典作品のよさを自信をもって伝えている姿が見られた。音読発表を聞いた下学年の児童は、上学年の発表の中から気に入った古典作品を選ぶことができるなど、古典作品への興味をもつことができた。また、上学年のように読みたいという思いをもって意欲的に昔話を読み、自分の好きな場面を友達に紹介することができた。

内容のつながりに留意した二学年の教材を一つの授業プランとしたことが、主体的な読み、意欲の向上へとつながったと言える。

○ 「音読による発表」に向けて、心引かれた作品のよさを相手に伝えるために、心引かれた理由と叙述とを結び付け読みを深めたり、想像を広げて読んだりすることができた。また、友達と交

流することで、作品全体に目を向けて読み取ったり、他者の感じ方や考え方を知ったり、自分の考えを深めたりし、想像を広げて読むことができた。

単元を貫く言語活動に「音読による発表」を位置付けたことで、児童が相手意識や目的意識をもって主体的に内容の読み取りを進め、自分の選んだ古典作品への興味・関心を高めることができたと言える。

- 古典作品や、昔話や神話・伝承の本を集めた図書コーナーから、心引かれた作品を選ぶことができ、友達や異学年との交流を通して、作品の世界を想像を広げながら読むことができた。古典作品であっても、作品世界へ想像を広げて読むことができると言える。

以上のことから、「読むこと」の学習において、伝統的な言語文化における音読による交流を核とした授業プランの活用は、想像を広げて読む能力を育成するために有効であったと言える。

## 2 課題

- 交流の際に、内容の読み取りよりも発表の仕方に目が向いてしまう児童が見られた。叙述に即して読み取ってきたワークシートやグループの話合いを振り返らせ、読み取ったことを音読によって表現させる活動へと導く必要がある。
- 異学年交流を学級全体で行うプランを実施したが、交流範囲が大きいため、児童が緊張でうまく伝えられなかったり、じっくりと時間をかけて伝えることができなかったりした。発表の仕方ではなく、読み取ってきた内容に目を向けるためには、小グループでの交流の方が効果的であると思われる。ただし、小グループであること見取りが難しくなるため、事前の指導が大切になる。内容の読み取りと交流の指導を充実させていく必要がある。

## X 今後の展望

異学年交流の取り入れ方を工夫することで、児童は相手意識や目的意識をもって主体的に読みを深めることができる。さらに、双方の学年のねらいをより効果的に達成するため、教材の内容につながるのある単元のまとめ方を構想していく。

伝統的な言語文化の学習においても、相手意識や目的意識をもたせた音読を取り入れることで、想像を広げて読む能力を伸ばすことができる。

本実践を基に、「5年生・2年生プラン」「2年生・1年生プラン」をよりよいものに改善し、さらに実践を積み重ね、資料を充実させていく。また、中学校との連携を見据えた6年生の授業プランの作成を行っていききたい。そして、学校全体で本授業プランに取り組むことで、児童の想像を広げて読む能力のさらなる育成を図りたいと考える。

### <参考文献>

- ・文部科学省 『小学校学習指導要領解説 国語編』 東洋館出版社(2009)
- ・伊藤 経子 著 『音読の授業』 国土社(1993)
- ・桂 聖 著 『論理が身につく「考える音読」の授業 文学アイデア50』 東洋館出版社(2011)
- ・高橋 俊三 著 『声を届ける 音読・朗読・群読の授業』 三省堂(2008)
- ・花田 修一 著 『伝統的な言語文化の学習指導事例集1～4』 明治図書(2011)
- ・藤本 宗利 著 『月刊国語教育 特集特別寄稿3』 東京法令(2009年5月)
- ・内藤 麗子 著 『群馬県総合教育センター平成22年度研究報告書』 (2011)

### <研究協力校>

伊勢崎市立境小学校

### <研究協力者>

今井 紀恵 齊藤 綾乃 深町 篤 松本 純子

### <担当指導主事>

委文 弥生 右井 義人

# 5年生・2年生フランチ

## <単元名>

### ☆ 5年生

声に出して楽しもう 今も昔も

「竹取物語」「枕草子」「平家物語」

(光村図書5年)

### ☆ 2年生

きいてたのしもう

「いなばの白うさぎ」

(光村図書2年)

単元の目標及び評価規準

	5 学年	2 学年
目標	古典作品に興味をもち、優れた叙述に着目しながら、登場人物や作者の心情、場面について、想像して読むことができる。	昔話や神話・伝承に興味をもち、好きな場面を想像しながら読んだり、友達に紹介したりすることができる。
評価規準	<p>関 古典作品に興味をもち、意欲的に読もうとしている。</p> <p>読 登場人物の行動や場面の情景を描き出す優れた描写に着目して読んでいる。</p> <p>言 古典作品の内容の大体を知り、情景を思い浮かべたりリズムを感じたりしながら音読している。</p>	<p>関 昔話や神話・伝承に興味をもち、意欲的に読もうとしている。</p> <p>読 好きな場面について、語のまとまりや言葉の響きなどに気を付け、想像を広げながら読んでいる。</p> <p>言 伝統的な言語文化に触れ、話の面白さや独特の語り口調、言い回しなどに気付き、親しんでいる。</p>

指導計画（第5学年 全4時間、第2学年 全3時間）

5 学年 4 時間計画

つかむ：1時間

昔の人が心引かれ、読みついできた古典作品を音読しよう

○教材文を聞き、音読する。  
○心引かれた古典作品とその理由を発表し合う。  
○単元の課題をつかむ。

心引かれた古典作品を2年生に音読発表しよう

※リズムや響きを感じることができるように、音読を取り入れる。

追究する：2時間

2年生への音読発表のための工夫を考えよう

心引かれたところが2年生に伝わるように工夫しよう

○友達と交流しながら音読を工夫する。  
※2年生への音読発表を設定し、相手意識や目的意識をもてるようにする。  
※友達との交流を位置付け、自他の考え方や感じ方を比較し、読みを深めることができるようにする。

まとめる：1時間

読み取ったことが伝わるように音読発表をしよう

○2年生に音読発表をし、お話について交流する。  
※2年生との交流を位置付け、自他の考え方や感じ方の異同に気付いたり、読みを深めたりできるようにする。



○：学習活動  
※：研究上の手だて  
太枠：異学年の交流活動

伝統的な言語文化の学習に音読は不可欠です。まずは、教師の後について読むことで独特の響きやリズム、歴史的仮名遣いに慣れることができます。そのあと、「句読点読み」「句点読み」「たけのこ読み」「リレー読み」などの様々な形態で楽しく音読することで、すらすら読めるようになります。古典の内容の大体をつかむためには、原文と現代語訳を交互に読む「古今読み」(P3)も効果的です。

2 学年 3 時間計画

つかむ：1時間

5年生の音読発表を聞いて、感想を発表しよう

○5年生の音読発表を聞き、お話について交流する。  
○単元の課題をつかむ。

お気に入りの昔話を友達に紹介しよう

※古典作品を身近に感じることができるように、5年生との交流を位置付ける。

追究する：1時間

お気に入りの昔話や神話・伝承を見付けよう

○教材文の音読発表を聞く。  
○好きな古典作品の好きな場面を選び、気に入った理由が伝わるように音読を工夫する。  
※相手意識や目的意識をもてるよう、友達に発表するという他者へ伝える音読を設定する。  
※「昔話や神話・伝承コーナー」を設置し、お気に入りの本を見付けられるようにする。

まとめる：1時間

プチ音読発表会をしよう

○プチ音読発表会で隣の席の友達に音読発表をし、お話について交流する。  
※友達との交流を位置付け、自他の考え方や感じ方の異同に気付いたり、読みを深めたりできるようにする。

単元を貫く言語活動



5年生の音読発表直後、昔話や神話・伝承の本を集めた図書コーナーを紹介すると、2年生は喜んで手にとって読み始めます。

学校図書館の他に、県や市町村の図書館の団体貸し出しを利用すると、図書コーナーを充実させることができます。

## 5年 <つかむ> 1 / 4

(1) 本時のねらい

古典のリズムや響きを感じながら音読し、好きな理由を話し合うことを通して、内容の大体をつかみ、古典に興味をもつことができる。

(2) 準備

ワークシート CDプレーヤー

映像資料：教科書等から抜粋した絵の拡大（竹取物語絵巻 清少納言の絵 平家物語絵巻）  
絵本「かぐや姫」「耳なし芳一」

音声資料：教材文CD（必要に応じて） 平家物語朗詠CD

拡大した教材文（必要に応じて）

(3) 展開

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童への支援 ◇評価)
<p>1 教材文「竹取物語」「枕草子」「平家物語」に出会い、本時の学習のめあてをつかむ。</p> <p>「竹取物語」は「かぐやひめ」のお話と同じだな。</p> <p>「枕草子」は春と夏のことが書いてあるのだな。</p> <p>「平家物語」は重い感じだな。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">昔の人が心引かれ、 読みついできた古典を音読しよう</p>	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古典との出会いには、教師の範読やCDなどを活用し、聞くことを重視できるようにする。</li> <li>・教科書の挿絵や絵巻を提示し、挿絵と古典を結び付けながら教師の範読やCDを聞くことで、古典の世界への関心を高め、本時のめあてをつかめるようにする。</li> </ul>
<p>2 作品の内容を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>「竹取物語」</p> <p>千年以上も前に書かれた物語なのだな。</p> <p>「あやしがりて」は「不思議だと思って」という意味なのだ。今とは違うのだな。</p> <p>「三寸」ってとても小さいことのたとえなのだ。竹の中にいられる大ききなのだな。</p> <p>「うつくしうて」って、昔は、「かわいらしい」という意味だったんだ。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「枕草子」</p> <p>清少納言が心に残ったことを書いたものなのだな。</p> <p>昔の言葉っておもしろいな。</p> <p>「をかし」が2回も出ているな。</p> <p>「やうやう」と書いて「ようよう」と読むのだな。</p> </div>	25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「三つの古典のうち、どれに心引かれたかな」と投げかけることで、三つの教材文を比べて聞き、リズムや響きの相違に気付けるようにする。</li> <li>・最初は、教師と交互に「句読点読み」を行うことで、抵抗なく読めるようにする。その後、様々な音読を取り入れ、何度も音読することで滑らかに音読できるようにする。</li> <li>◎音読に苦手意識がある児童には、読んでいる場所を指でなぞらせたり、隣で音読したりする。</li> <li>◎全員が音読できるように、拡大した教材文を黒板に掲示し、読んでいる場所を指し示しながら音読する。</li> <li>・「古今読み（P3）」を行い、現代語訳を確認しながら読み進めることで、内容の大体をつかめるようにする。</li> <li>・「あやしがりて」「いと」「うつくしうて」「さらなり」などの気持ちの表れる部分の音読の仕方を考えさせることで、読み聞かせにつなげられるようにする。</li> <li>・教科書の挿絵や映像資料を活用し、作品の内容を想像できるようにする。</li> <li>・作品の内容や背景などについては、一方的な教え込みにせず、児童から分からないこ</li> </ul>

<p>「平家物語」</p> <p>「平家物語」は力強くてカッコいいな。</p> <p>「平家物語」は琵琶法師が伝えていたのだね。</p>	<p>とを引き出したり、既知のことがある児童を活躍させたりすることで、古典についての関心を高め、短時間で内容の大体を知ることができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・拡大して示した「竹取物語絵巻」や「清少納言の絵」、「平家物語の朗詠CD」など、映像資料や音声資料を活用することで、古典の世界に導けるようにする。</li> </ul>
<p>3 心引かれた古典を選び、その理由を発表し合う。</p> <p> 「かぐやひめ」の基になったお話の「竹取物語」が気に入りました。千年以上も前の物語を今の人も知っているのは、すごいことだなと思ったからです。</p> <p> 「枕草子」に興味をもちました。「秋」と「冬」は何だろう、知りたいなと思ったからです。</p> <p> 「平家物語」が好きです。漢字ばかりで難しそうだなと思っていたけれど、音読してみたら、リズムがあって楽しいと感じたからです。</p>	<p>10</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・選んだ古典やその理由を発表し合うことで、友達の考えとの異同について気付き、自分の思いをより明確にもてるようにする。</li> <li>◎選ぶのに時間を要する児童には、友達の発表を手掛かりに、自分の考えをもてるようにする。</li> <li>・ワークシートに好きな古典を選んだ理由を記入する際には、現代と違う言葉や特徴的な言葉に着目する等、叙述に根拠を見出せるよう助言する。</li> </ul> <p>◇自分なりの理由をもって、好きな古典を選んでいる。 (音読・発表・ワークシート) 【関心】</p>
<p>4 単元の課題をつかむ。</p> <p><b>心引かれた古典作品を、2年生に音読発表しよう。</b></p> <p>読み聞かせが楽しみだな。</p> <p>2年生にどんなふうに読み聞かせをすればいいかな。</p>	<p>5</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2年生への音読発表という単元を貫く言語活動を設定することで、相手意識や目的意識をもって意欲的に学習し、想像を広げて読むことができるようにする。</li> <li>・次時まで、選んだ古典ごとにグループを編成しておく。2年生との異学年交流のために、一作品につき2グループずつ程度になるよう配慮する。</li> <li>・さらに内容を知りたい児童のために、参考文献や資料等を紹介し、いつでも閲覧できるように「竹取物語・枕草子・平家物語コーナー」を設置する。</li> </ul>

**「竹取物語」**  
900年ごろ（平安時代初期）に書かれた日本最古の物語。「物語の祖」といわれている。現代でも「かぐやひめ」として親しまれている。

**「枕草子」**  
1000年ごろの成立。作者は清少納言が宮仕えをしているときに書いた作品。

**「平家物語」**  
1200年ごろ（鎌倉時代）に成立。平家一門の盛衰を描く。琵琶法師によって語られた。

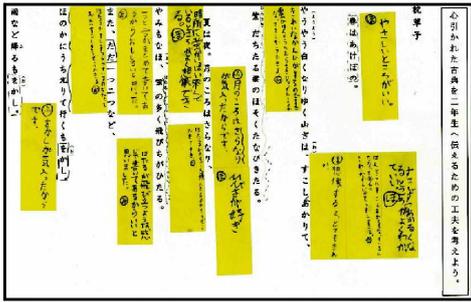
「古今読み」とは、原文と現代語訳を交互に読む読み方です。原文と現代語訳とが一致し、内容の大体をつかむことができます。

<例>原文：教師 現代語訳：児童  
教師「春はあけぼの。」  
児童「春は明け方。」  
教師「ようよう白くなりゆく山ぎは、」  
児童「だんだん白くなっていく山ぎわの空が、」

※原文：児童 現代語訳：教師の読み方でも行いましょう。  
※児童同士でも行うことができます。

## 5年 <追究する> 2/4

- (1) 本時のねらい  
2年生に伝える音読発表の工夫を考え、グループで話し合うことを通して、作品世界に想像を広げて読むことができる。
- (2) 準備  
ワークシート グループワークシート 付箋紙  
映像資料：教科書等から抜粋した絵の拡大（竹取物語絵巻 清少納言の絵 平家物語絵巻）  
音声資料：琵琶法師の朗詠CD  
絵本「かぐや姫」「耳なし芳一」
- (3) 展開

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童への支援 ◇評価)
<p>1 本時の学習のめあてをつかむ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">2年生への音読発表のための工夫を考えよう</p> </div>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>2年生に行う音読発表の方法を伝え、読み聞かせへの意欲や見通しをもてるようにする。</li> <li>教室内に設置しておいた「竹取物語・枕草子・平家物語コーナー」を紹介し、音読発表の工夫を考える際に活用できるようにする。</li> </ul>
<p>2 心引かれた古典作品を2年生に伝える工夫を考える。</p> <div style="margin-top: 20px;">  <p>「かぐやひめ」の基となったお話なので、2年生にも紹介したいな。</p> <p>「筒の中光りたり」は、驚いたように少し大きな声で読もう。</p> </div> <div style="margin-top: 20px;">  <p>清少納言の季節の表し方のおもしろさを伝えるために「春」「夏」だけでなく「秋」「冬」も読んであげたいな。</p> <p>「やうやう白くなりゆく」は、だんだん白くなる感じが出るようにゆっくり読もう。</p> </div> <div style="margin-top: 20px;">  <p>平家物語のかっこよさを伝えるために低い声でゆっくり読んでみよう。</p> <p>きっと、2年生も読みたくなるだろうと思うな。</p> <p>ぼくたちの後を読ませてあげたいな。</p> </div> <div style="margin-top: 20px;">  </div>	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>2年生に伝える音読の工夫を考える際には、読み方や発表の仕方の工夫を考えるよう助言し、心引かれた理由を伝えられるようにする。</li> <li>本文の横に音読記号とその読み方にした理由を記述するよう促し、想像を広げて読むことができるようにする。</li> <li>グループでの話し合いに使用するため、読み方の理由を付箋紙に書かせておくようにする。</li> <li>◎グループでの交流の際、読み方の理由を自信をもって発表できるように、よい読み方の理由や工夫点を賞賛したり、足りない部分を質問したりする。</li> <li>作品に合う発表形態を問い掛けたり、提示できる資料を紹介したりし、2年生に伝えるための発表の工夫を考えられるようにする。</li> <li>◇2年生に伝えるために、自分なりに音読の工夫を考えている。 (ワークシート)【読む】</li> </ul>

<p>3 グループで音読発表の工夫を考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>「竹取物語」</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;"> <p>最初に絵本の「かぐやひめ」を読んであげたいな。</p> </div>  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block; margin-top: 5px;"> <p>「あやしがりて」は「不思議に思って」という感じが出るようにゆっくり読もう。</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>「枕草子」</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;"> <p>初めに連想ゲームをしたいな。</p> </div>  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;"> <p>季節ごとに役割を替えて読むと、季節が変わったのが伝わると思う。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>「ただ一つ二つなど」は、蛍が離れた場所で光っていることが表せるように、読む人を替えよう。</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「平家物語」</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;"> <p>ぼくたちが読み聞かせをした後、2年生にも読ませてあげたいな。</p> </div>  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;"> <p>琵琶の演奏を入れたいな。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>群読がいいと思う。声をそろえて読むと力強さが出てくるよ。</p> </div> </div>	<p>15</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の工夫点を書き込んだワークシートを持ち寄ることで、グループの話合いに積極的に参加できるようにする。</li> <li>グループワークシートに個々に記入した付箋紙を貼りながら発表し合うことで、一人一人の工夫をグループワークシートに残すことができるようにする。</li> <li>付箋紙には記名させ、個々の読み取りが評価できるように残しておく。</li> <li>付箋紙の多少ではなく、少数派の意見も読んで検討することを助言する。</li> <li>異なる考えがある場合は、それぞれの理由をよく聞き合い、場面の様子を思い浮かべられるように支援する。</li> <li>役割読みや簡単な劇、群読など各グループの交流によってまとめた表現内容に合った発表形態を助言する。</li> </ul> <p>◎発表の形態がまとまりにくいグループには、「竹取物語・枕草子・平家物語コーナー」の中から、グループの話合いの内容に応じた資料を提示したり、グループの交流内容に合った発表形態を助言したりする。</p>
<p>4 グループの工夫を基に、発表の仕方や音読記号をグループワークシートに書き込む。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>不思議そうに近寄っていく竹取の翁の様子が伝わるように、低い声で読もう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>「紫だちたる雲のほそくたなびきたる」は、穏やかな感じが出るように、ゆっくり読もう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px;"> <p>最初の四行は、力強さを表すために二人で声をそろえて読もう。</p> </div>	<p>15</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループでまとめた工夫点を基に、音読記号を書き込むことで、グループワークシートを完成させることができるようにする。</li> <li>音読記号を書き込む際には、実際に叙述を音読をしながら考えたり伝えたりするように助言する。</li> <li>音読記号の他、役割分担や注意点等を書き込んでおくように伝え、発表につなげさせる。</li> <li>グループワークシートは代表の児童に書き込ませておく。第2次2時間目の授業後、できあがったグループワークシートのコピーを各自のワークシートに貼り付け、発表原稿として活用することを伝える。</li> </ul>
<p>5 本時の学習を振り返り、次時の学習への見通しをもつ。</p>	<p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業後、グループワークシートをコピーし、各自に自分のグループワークシートを配布する。</li> </ul>

## 5年 <追究する> 3 / 4

(1) 本時のねらい

友達と音読による交流をし、思いや考えが伝わるように音読を工夫することで、作品の世界を想像を広げて読むことができる。

(2) 準備

グループワークシート 付箋紙

映像資料：教科書等から抜粋した絵の拡大（竹取物語絵巻 清少納言の絵 平家物語絵巻）

音声資料：琵琶法師の朗詠CD

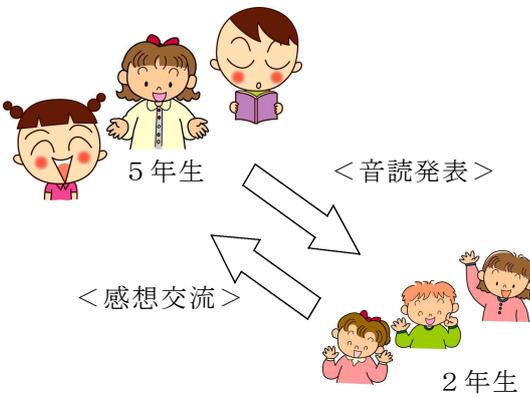
(3) 展開

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童への支援 ◇評価)
<p>1 本時の学習のめあてをつかむ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>心引かれたところが2年生に伝わるように工夫しよう</p> </div>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年生が古典に興味をもてるようにするという相手意識や目的意識をもって、音読発表の練習ができるようにする。</li> <li>・本時の流れ（グループでの交流→他グループとの交流→グループでの交流）を伝えておく。</li> </ul>
<p>2 グループで交流する。</p> <div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 10px;"> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 250px;"> <p>かぐやひめの絵本の読み聞かせは、「竹取物語」で読み聞かせをする場面だけにしよう。</p> </div> </div> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 250px;"> <p>クイズは、読み聞かせの前にやろう。答えをさがしながら聞くと、内容が伝わると思う。</p> </div> </div> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 250px;"> <p>琵琶の演奏を流しながら音読してみよう。</p> </div> </div> </div>	15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループの工夫点を確認してから練習できるようにする。</li> <li>・各グループが選択した発表形態を尊重しながら、読み取った内容が表現できているか、2年生に分かりやすい発表となっているかという点について助言する。</li> <li>・グループワークシートを基に、実際に声を出したり、動いたりしながら内容表現が充実するようグループで練習させる。</li> <li>・グループワークシートには加除訂正をしながら練習するように助言する。</li> </ul> <p>◎音読に苦手意識がある児童には、役割分担を工夫させたり、一緒に練習したりする。</p> <p>◇自分の思いやグループの考えが伝わるように音読している。（音読）【読む】</p>
<p>3 同じ作品を選んだ、他グループと交流し、アドバイスをし合う。</p> <div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px;"> <p>かぐや姫の絵本も読んであげたので2年生は、自分でも読みたいと思うよ。絵を見せながら読んであげると場面の様子が浮かんでくると思う。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px;"> <p>季節ごとに役割を決めて読んだので、季節の切り変わりが分かったよ。調子を変えると季節の違いが伝わると思う。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px;"> <p>群読で力強さが伝わってきたよ。きっと2年生も声に出して読んでみたくなると思うよ。</p> </div> </div>	15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ作品を選んだ2つのグループでまとめ、交流し合うことで、内容についても意見を出し合えるようにする。</li> <li>・工夫点について説明しながら、音読発表をさせることで、聞き手から視点をしぼったアドバイスがもらえるようにする。</li> <li>・音読発表後、2年生への発表に向け改善できるように、よい点や感想・改善点などを付箋紙に書かせ、言葉で伝えながらアドバイスするように助言する。</li> <li>・よい点や感想・改善点が書かれた付箋紙は、グループワークシートに貼り付けておき、自分たちの発表を振り返れるように助言する。</li> </ul>

<p>4 発表に向け練習をし、次時の学習への見通しをもつ。</p> <p>「かぐやひめ」の挿絵を、実物投影機で映し出してみんなに見えるようにしましょう。</p> <p>季節ごとに絵を用意し、裏に答えを書いておこう。</p> <p>2年生が読むときにも、雰囲気を感じることができるよう琵琶の演奏を流そう。</p>	<p>12</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 他のグループとの交流で得られた改善点に気を付けて音読発表の練習をする。</li> <li>• 授業後、グループワークシートをコピーし、配布する。</li> <li>• 発表の原稿として使用できるように、各自のワークシートに貼り付けるよう指示する。</li> </ul>
---	---

## 5年 <まとめ> 4 / 4

- (1) **本時のねらい**  
 自分やグループの工夫点に注意しながら、2年生に音読発表をし交流することで、古典への思いを再確認し、読みを深めることができる。
- (2) **準備**  
 ワークシート（グループワークシート）  
 「昔話、神話・伝承コーナー」  
 （必要に応じて：映像資料 教科書の挿絵の拡大 竹取物語絵巻 枕草子原文）
- (3) **展開**

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童への支援 ◇評価)
<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     読み取ってきたことが伝わるように、                      古典の音読発表をしよう。                 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     2年生に自分たちが読み取ってきたことが伝わるように読み聞かせをしよう。                 </div>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入部は2年生担任（2担）とTTで行う。5年生担任は、5年生の指導・支援を行いながら、中心となって授業を進める。</li> <li>・二カ所に分かれて発表できるよう、図書室等に会場を設定する。</li> <li>・音読発表・感想交流を5年生が中心となって行えるように、音読発表の流れをあらかじめ知らせておく。</li> <li>・各グループの工夫を確認し、本時のめあてをつかめるようにする。</li> </ul>
<p>2 音読発表をし、感想交流をする。</p> <div style="text-align: center;">  <p style="text-align: center;">5年生</p> <p style="text-align: center;">2年生</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「竹取物語」</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px;">                         かぐやひめと一緒に紹介し、竹取物語に興味をもってもらおう。                     </div> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px; margin-top: 5px;">                         「あやしがりて」って出てきたけど、意味は分かったかな。                     </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px; margin-top: 5px;">                         今は「あやしい」って意味だけど、昔は「不思議に思っ」ってという意味だよ。びっくりしたかな。                     </div> </div>	30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表、交流の時間の確保のため、二つのグループに分かれて音読発表を行う。</li> <li>・2年生に三つの古典を伝えることができるように、また、5年生が自分のグループとは違う古典の発表を聞くことができるように、それぞれのグループに違う古典を選んだ三つのグループが集まり、音読発表を行えるようにする。</li> <li>（2担）：読み聞かせを落ち着いて聞くことができるように、グループや座る位置を決めておく。</li> <li>・5年生が協力して音読発表場を設置することで、中心となって進めていく気持ちを高める。</li> <li>・音読発表の前に、自分たちの工夫を伝える活動を設定することで、2年生に音読の工夫を伝わりやすくする。</li> <li>◎音読を上手にできない児童には、役割分担を工夫させたり、同じグループの友達と一緒に読ませたりする。</li> <li>・自分たちで工夫しながら、音読発表ができたことを賞賛し、自信をもてるようにする。</li> </ul>

「枕草子」



2年生に清少納言の感じた季節感を伝えよう。

季節ごとに読む調子を変えたことに気付いてくれたよ。枕草子の季節感が伝わったかな。

「平家物語」



群読で平家物語の力強さを表現しよう。

やっぱり平家物語は群読にして良かったな。2年生も力強さを感じてくれたぞ。

2年生がリズムを楽しんでいたな。一緒に読む時間を作ってよかったな。

3 単元のまとめをする。

2年生が楽しみながら聞いてくれて良かった。

かぐやひめの絵本を一緒に読んであげたのは、分かりやすくなって良かったよ。

もっといろいろな古典を読みたいな。

- ・感想交流では、質疑応答や補足説明をさせることで、自分の心引かれた古典作品への思いを再確認したり、さらに読みを深めたりできるようにする。

(2担)：感想交流の際、2年生の児童を指名したり、発言を支援したりする。

- ・2年生と感想交流をすることで、音読で伝えたかった古典への思いを再確認したり、感じ方の違いに気付いたり、読みを深めたりできるようにする。

◇自分の思いや考えが伝わるように音読している。(音読発表・ワークシート)【読む】

12

- ・感想交流後は、単元のまとめを行えるよう、5年生だけでまとまって行う。

- ・2年生への読み聞かせを振り返り、充実感をもてるようにする。

- ・単元の学習を振り返り、ワークシートに感じたことや考えたことを記述することで、学習の成果を実感できるようにする。

(2担)：2年生だけのまとまりに移動させ、5年生との交流を振り返らせることで、単元の課題をつかめるようにする。  
→(P10：2年つかむ1/3)

- ・後日、2年生からの手紙に返事を書く活動を設定することで、古典を2年生に読み聞かせしたことへの達成感をもてるようにする。

## 2年 <つかむ> 1 / 3

(1) 本時のねらい

5年生の音読発表を聞き、感想を交流することを通して、古典作品に興味をもつことができる。

(2) 準備

「昔話、神話・伝承コーナー」

(3) 展開

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童への支援 ◇評価)
<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">5年生の音読発表を聞いて、感想を発表しよう</div>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入部は5年生担任とTTで行う。</li> <li>・5年生担任をサポートしながら、主として2年生の指導・支援を行う。</li> <li>・古典を身近に感じることができるよう、5年生との交流を位置付ける。</li> </ul>
<p>2 音読発表を聞いて、感想交流をする。</p> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「竹取物語」</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 80%;">                     竹取物語って、かぐやひめのお話なんだ。すごく昔の人が書いたのだね。                 </div> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 5px;">                     「あやしがりて」って、昔は「不思議に思っ」という意味だったんだ。昔の言葉と今の言葉は違う言葉があるのだな。                 </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「枕草子」</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 80%;">                     清少納言の絵を見せてくれたよ。きれいな着物を着ていたよ。                 </div> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 5px;">                     難しい言葉が多かったけど、何となく春って感じが分かったよ。                 </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「平家物語」</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 80%;">                     リズムがおもしろいな。                 </div> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 5px;">                     ちょっと覚えたよ。教えてもらいたいな。                 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 5px;">                     みんなで声をそろえて読んでいて、すごかった。ぼくたちも声をそろえて読んでみたいな。                 </div> </div>	30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5年生が設置した音読発表コーナーに移動させ、音読発表を落ち着いて聞くことができるようにする。</li> <li>◎2年生を前列に配置してすわらせ、後方に発表者以外の5年生が入ることで、場の統一感をつくるようにする。</li> <li>・音読発表後、感想を発表したり質問をしたりすることを事前に知らせておくことで、注意して聞けるようにする。</li> <li>・音読発表の前に、5年生の音読の工夫を聞く時間を設定することで、交流で感想を発表しやすくなるようにする。</li> <li>・感想交流の際に、2年生児童を指名したり発言を支援したりする。</li> <li>◎発表に集中できない児童や感想を発表できない児童に支援を行う。</li> <li>・感想交流の際には、一人一人の発表を大切に扱うことで、発表しやすい雰囲気作りに努める。</li> </ul>

3 単元の課題をつかむ。

いろいろな昔話を読んでみたいな。

5年生に教えてもらった「耳なし芳一」が怖そうでおもしろそうだから、読んでみたいな。

昔話を読んでくれてありがとう。ぼくたちも5年生みたいに工夫して読みたいな。

**お気に入りの昔話を友達に紹介しよう**



おもしろそうな本がいっぱいあるね。今日借りて行って読んでこよう。



隣の席の友達に読んであげるのが楽しみだな。

15

- ・感想交流後は、2年生でまとまり、5年生との交流を振り返らせ、単元の課題をつかませるようにする。
- ・さらに本を読みたいという意欲を喚起できるように、図書室に「昔話や神話・伝承コーナー」設置し、紹介する。
- ・お気に入りの昔話や神話・伝承を友達に伝える音読発表会する言語活動を設定することで、意欲をもって読み取り、想像を広げて読むことができるようにする。

◇昔話や神話・伝承に興味をもち、意欲的に読もうとしている。  
(発言)【関・意・態】

- ・授業後も引き続き図書室や教室前廊下などに昔話や神話・伝承コーナーを設置し、いつでも手にとって見られるようにしておく。

## 2年 <追究する> 2 / 3

(1) 本時のねらい

好きな昔話や神話・伝承の本を選び、気に入った理由を考えることを通して、作品世界に想像を広げて読むことができる。

(2) 準備

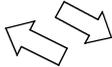
おすすめカード 昔話や神話・伝承の本コーナー

(3) 展開

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童への支援 ◇評価)
<p>1 本時の学習のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">お気に入りの昔話や神話・伝承を見つけよう。</p> </div>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5年生に音読発表をしてもらったことを想起させ、活動の見通しをもてるようにする。</li> </ul>
<p>2 教材文「いなばのしろうさぎ」の読み聞かせを聞く。</p> <div style="margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block; margin-right: 10px;"> <p>しろうさぎが主人公だな。</p> </div>  </div> <div style="margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>オオクニヌシはしろうさぎを助けた優しい神様だな。</p> </div> </div>	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 古典との出会いは、教師の範読とすることで、聞くことを重視できるようにする。</li> <li>・ 教科書の挿絵を見ながら聞くことで、登場人物の行動や場面の様子を想像することができるようにする。</li> <li>・ 「誰が出てくるのか」「誰が何をしたのか」の視点を与えることで話の内容を聞きとれるようにする。</li> </ul>
<p>3 昔話や神話・伝承コーナーから、好きな本を選び、気に入ったところをおすすめカードに記入する。</p> <div style="margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block; margin-right: 10px;"> <p>5年生に読んでもらった「かぐやひめ」を読もう。おじいさんがかぐや姫を見つけたところが面白いな。</p> </div> </div> <div style="margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block; margin-right: 10px;"> <p>神様のお話を読みたいな。アマテラスオオミカミが出てくるお話にしよう。隠れちゃったところが面白いよ。</p> </div> </div> <div style="margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>「耳なし芳一」は平家の亡霊の話って言ってたな。体中にお経を書いたけど耳だけ書き忘れたところが面白いな。</p> </div> </div>	17	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 昔話や神話・伝承の本を集めた図書コーナーを設置し、お気に入りの本を見付けられるようにする。</li> <li>◎お気に入りの本を見付けることのできない児童には、その子に合った本を紹介するなど、個別に対応する。</li> <li>・ 「おすすめカード」に、お気に入りの作品に選んだ理由を書き込ませることで、作品への思いを明確にさせる。</li> <li>◇好きな本を選び、気に入った理由をワークシートに書いている。 (おすすめカード)【関・意・態】</li> </ul>
<p>4 選んだ本の気に入った理由が伝わるように好きな場面を選び音読の練習をする。</p> <div style="margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block; margin-right: 10px;"> <p>おじいさんがかぐや姫を見つけて驚いた感じが伝わるように読もう。</p> </div>  </div>	15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相手意識や目的意識をもてるよう、友達に発表することを伝える。</li> <li>・ 語のまとまりや言葉の響きに気を付けて音読の練習をできるようにするために、言葉そのものに注目するよう助言する。</li> <li>◇語のまとまりや言葉の響きになどに気を付けて音読している。 (音読)【読むこと】</li> </ul>

## 2年 <まとめる> 3 / 3

- (1) **本時のねらい**  
 プチ音読発表会で、お気に入りの昔話や神話・伝承を友達に音読で紹介することができる。
- (2) **準備**  
 選んだ本
- (3) **展開**

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童への支援 ◇評価)
<p>1 本時の学習のめあてをつかむ。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">お気に入りの昔話や神話・伝承のプチ音読発表会をしよう</p>	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お気に入りの昔話や神話・伝承を隣の席の友達に音読発表をするプチ音読発表会を行うことで、自分のお気に入りの本を音読発表したり、友達のお気に入りの本を楽しむことができるようにする。</li> </ul>
<p>2 プチ音読発表会で、隣の席の友達に音読発表をし、感想交流をし合う。</p> <div style="display: flex; align-items: center; gap: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 150px;">興味をもってくれるといいな。</p> <p style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 150px;">「耳なし芳一」の怖いところが伝わるように読めたかな。</p> </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">5年生が教えてくれた「耳なし芳一」だね。</p> <p style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px;">平家の亡霊に耳を取られちゃうなんて少し怖いお話だね。</p> </div> </div>	30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の音読発表を聞くことで、いろいろな古典を読んでみたいという気持ちを高められるようにする。</li> <li>・友達との交流を位置付け、本の内容について話したり、紹介された部分以外の場所を一緒に読んだりすることで、感じ方の違いに気付いたり、読みを深めたりできるようにする。</li> </ul> <p>◎丸ごと1冊を音読発表するのではなく好きな場面の音読発表とすることで、練習の負担を減らし、楽しく音読できるようにする。</p> <p>◇お気に入りの昔話や神話・伝承を友達に音読発表したり、友達の音読発表を聞いたりしている。          (音読発表)【言語】</p>
<p>3 単元のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-bottom: 5px; width: 150px;">わたしも今度、少し怖いお話を読んでみよう。</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-bottom: 5px; width: 150px;">ぼくは、神様のお話を読んでみたいな。</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-bottom: 5px; width: 150px;">1年生に読み聞かせをするのは楽しみだな。本をいっぱい読んでおこう。</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 150px;">5年生に読み聞かせをしてもらって楽しかったな。5年生みたいに上手に読めるようになりたいな。</div>	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表された本のコーナーを設置し、読書の時間や休み時間などにいつでも手にとって読めるようにしておくことで、読みたいという意欲を持ち続けることができるようにする。</li> <li>・1年生に向けて音読発表会をする計画を知らせ、友達が紹介した本などを進んで読もうとする意欲を喚起する。</li> <li>・5年生にお礼の手紙を書き、後日返事をもらう活動を設定することで、伝統的な言語文化への興味を高めることができるようにする。</li> </ul>

# 2年生・1年生フランチ

## < 単元名 >

☆ 2年生 聞いてたのしもう「三まいのおふだ」  
(光村図書2年下)

☆ 1年生 「むかしばなしがいっぱい」  
(光村図書1年下)

単元の目標及び評価規準

	2 学年	1 学年
目標	登場人物の行動や場面の様子を想像しながら読み、好きな昔話を1年生に音読劇などで発表することができる。	昔話に興味をもち、好きな場面の様子を登場人物の行動を中心に想像しながら読むことができる。
評価規準	<p>関音読の楽しさに気付いたり、音読で自分の思いを表現したりしようとしている。</p> <p>読場面の様子を音読で表すという目的をもって、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読んでいる。</p> <p>言独特の語り口調や言い回しに付き、音読している。</p>	<p>関昔話に興味をもち、意欲的に読もうとしている。</p> <p>読好きな場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読んでいる。</p> <p>言話の展開の面白さに付き、音読発表を聞いたり音読したりしている。</p>

指導計画（各学年 全4時間）

2 学年 4 時間計画	
つかむ：1 時間	<p>面白いと思ったところを音読しよう</p> <p>○「三まいのおふだ」を聞いて、面白いと思ったところを発表し合い、音読し合う。</p> <p><b>お気に入りの昔話を1年生に音読発表しよう</b></p> <p>※教科書の挿絵や紙芝居を活用し、興味をもつことができるようにする。</p> <p>※相手意識や目的意識をもてるよう、1年生へ伝える音読を設定する。</p>
追究する：2 時間	<p>1年生に伝えたい昔語を選ぼう</p> <p>○1年生の教科書に紹介されている昔話の中から好きな作品を選ぶ。</p> <p>※手にとって選べるように「昔話の本コーナー」を設置する。</p> <p>昔話のよさが1年生に伝わるように工夫しよう</p> <p>○1年生に伝わるように音読を工夫する。</p> <p>※音読劇やペープサートなどの他者へ伝える音読を取り入れて発表できるように導く。</p>
まとめる：1 時間	<p>お気に入りの昔話を1年生に音読で発表しよう</p> <p>○発表し、1年生とお話について交流する。</p> <p>※1年生との交流を位置付け、自他の考え方や感じ方の異同に気付いたり、読みを深めたりできるようにする。</p>

- ：学習活動
- ※：指導上の留意点
- 太枠：異学年の交流活動



「他者へ伝える音読」の活動例

内容を音声表現で伝えることをめあてとさせながら、以下のような活動を選択させます。

- 音読劇
- ペープサート
- 役割読み
- 人形劇
- 紙芝居
- 群読

単元を貫く言語活動

1 学年 4 時間計画	
つかむ：1 時間	<p>2年生の音読発表を聞いて、感想を発表しよう</p> <p>○お話を聞き、2年生とお話について交流する。</p> <p>○「おはなしにつき」を書く。</p> <p><b>お気に入りの昔話を友達に紹介しよう</b></p> <p>※古典を身近に感じることができるよう、2年生との交流を位置付ける。</p>
追究する：2 時間	<p>昔話を読んで、「おはなしにつき」を書こう</p> <p>○教科書の挿絵から、知っている昔話を見付け発表し合う。</p> <p>○昔話を読み、「おはなしにつき」を書く。</p> <p>※教科書の挿絵や絵本・紙芝居を活用し、興味をもつことができるようにする。</p> <p>※児童の発表した話を読み聞かせたり一緒に読んだりして読みたいという気持ちをもてるようにする。</p> <p>友達に紹介する昔話を選び、音読の練習をしよう</p> <p>○「おはなしにつき」の中からクラスの友達に紹介する昔話を選ぶ。</p> <p>※手にとって選べるように「昔話の本コーナー」を設置する。</p>
まとめる：1 時間	<p>お気に入りの昔話をクラスの友達に紹介しよう</p> <p>○発表し、友達とお話について交流する。</p> <p>※友達との交流を位置付け、自他の考え方や感じ方の異同に気付いたり、読みを深めたりできるようにする。</p>

単元を貫く言語活動



聞き手である1年生を2年生と同数のグループに編制し、各グループごとに発表を行うことで、1年生は臨場感を味わい、昔話の世界に引き込まれていきます。

2年生は少人数を相手にするので、のびのびと発表することができます。また、1年生の反応を目の前に見ることができ、自分の読みを再確認したり、深めたりすることができます。

## 2年 <つかむ> 1 / 4

(1) 本時のねらい

「三まいのおふだ」の読み聞かせを聞いたり、楽しく音読したりすることで、登場人物の行動に着目しながら昔話の面白さに気付き、想像を広げることができる。

(2) 準備

教科書の挿絵の拡大 昔話の本  
(必要に応じて、教材文のCD CDプレーヤー)

(3) 展開

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童への支援 ◇評価)
<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <p>「三まいのおふだ」の読み聞かせを聞いて、面白いと思っ たところを発表しよう</p>	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>読み聞かせ後に、面白いところを発表し合うことを事前に知らせておくことで、視点をもった聞き方ができるようにする。</li> </ul>
<p>2 教材文「三まいのおふだ」の読み聞かせを聞いて、面白いところを発表し合う。</p> <p>こぞうがおふだに、「だいぶにげのびるまで、まだだ って、いってけれ。」と頼んで、逃げたところです。 やまんばがおふだの声にだまされていて、面白いな と思いました。</p> <p>こぞうが、「大川、出る。」とお札を投げたところ です。 やまんばが、ごびごびと水をのみのみ、わしわしと川 を渡る場面を想像すると面白いからです。</p> <p>こぞうが、最後のお札を出して、「すな山、出る。」 と後ろへ投げたところです。</p> <p>おしょうが、やまんばを飲み下したところです。 おしょうが、豆つぶになったやまんばを食べちゃうな んてびっくりしました。</p> <div style="text-align: center;">  </div>	30	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の挿絵を拡大掲示し、人物の行動や場面の様子についての想像がふくらむようにする。</li> <li>読み聞かせを途中で止め、掲示してある教科書の挿絵と対応させながら聞かせることで、場面ごとの面白さに気付き、場面の様子や登場人物の行動について、想像を広げながら聞くことができるようにする。</li> <li>一人一人の発表を大切に扱うことで、発表しやすい雰囲気作りに努める。</li> <li>◎発表の際には、教科書に載っている話形「一が、一 するところですよ。」を基本として示すことで、発表しやすくする。</li> <li>どの叙述から面白さを感じたのか、叙述からどのような想像をしたのかなど、叙述を根拠に発表させることで、全員の児童が複数回本文を読む場面を確保する。</li> <li>発表を受けて、教材文を音読することで友達の意見に共感し、想像をさらに広げられるようにする。</li> <li>◇登場人物の行動に着目しながら、面白い理由を表現している。(発言)【読む】</li> </ul>
<p>3 単元の課題をつかむ。</p> <p>いろいろな昔話を読んでみたいな。</p> <p>5年生に読み聞かせをしてもらったように、 わたしも昔話を誰かに読んであげたいな。</p> <p style="background-color: yellow; border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center;">お気に入りの昔話を1年生に音読発表しよう</p> <p>図書室にコーナーがあるよ。見付けに行こう。</p> <p>「花咲かじいさん」を読んでみたいな。</p>	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>お気に入りの昔話や神話・伝承を1年生に伝える言語活動を設定することで、意欲をもって読み取り、想像を広げて読むことができるようにする。</li> <li>図書室や教室前廊下などに昔話や神話・伝承の本を集めた図書コーナーを設置し、いつでも手にとって見られるようにしておく。</li> </ul>

## 2年 <追究する> 2 / 4

(1) 本時のねらい

1年生に伝える昔話を選び、グループの友達と交流しながら音読の工夫を考えることで、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むことができる。

(2) 準備

昔話の本コーナー

1年生の教科書（光村図書1年上 P33）の拡大カラーコピー

1年生の教科書（光村図書1年上 P33）のカラーコピー（グループ数）

(3) 展開

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童への支援 ◇評価)
<p>1 本時の学習のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">                     1年生に伝えたい昔話を選ぼう                 </div>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>5年生に音読発表してもらったことを想起させることで、活動の見通しをもち意欲を高められるようにする。</li> </ul>
<p>2 1年生に伝えたい昔話を選ぶ。</p> <div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 10px;"> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 250px;">                     「ここほれ、わんわん」の場面が好きだから、「花さかじいさん」にしよう。                 </div> </div> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 250px;">                     「三年ねたろう」がいいな。村の子どもたちにはやし立てられてもずっと寝ているところがおもしろいよ。                 </div> </div> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 250px;">                     「かちかち山」にしよう。「昔話の本コーナー」に紙芝居があったよ。1年生は紙芝居が大好きだから、発表で使えるよ。                 </div> </div> </div>	15	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手意識を明確にするため、1年生に伝える昔話は、1年生の教科書に掲載されている昔話の中から選ぶこととする。</li> <li>1年生の教科書の挿絵から知っている昔話を発表し合うことで、話の内容を共有できるようにするとともに、音読発表したい昔話を選びやすくする。</li> <li>各自が選んだ理由をグループ内で紹介し合う際は、根拠を基に話させるようにし、グループで一作品を選ぶ際の視点にさせる。</li> <li>1年生の教科書に掲載されている昔話を集めた「昔話の本コーナー」から気になる本を持ち寄り、グループのみんなで見ながら選べるようにする。</li> </ul>
<p>3 グループごとに、伝える工夫を考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 350px;"> <p>「花さかじいさん」</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">                         枯れ木に花をさかせるところで、本当に花を咲かせたいね。                     </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">                         枯れ木を描いておいて、そこに花を貼り付ければいいよ。                     </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">                         花吹雪もいいかな。                     </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">                         おじいさんとポチをペープサートにして動かそう。                     </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">                         大判小判も作ろうよ。                     </div> </div>	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>音読を中心として、劇や動作、役割読みを取り入れてもよいことを伝え、発表の見通しをもてるようにする。</li> <li>◎簡単にできる工夫を紹介したり、一緒に考えたりすることで、伝える工夫を選べるようにする。</li> <li>劇や動作、役割読みを取り入れることで、登場人物の行動や場面の様子を想像しやすくなるようにする。</li> <li>選択した話によっては、昔話の全てではなく、話の中心場面を抜粋したり、部分的に削除したりしてもよいことを伝え、特徴的な場面を選べるようにする。</li> </ul>

「三年ねたろう」

村の子どもたちにはやし立てられてもずっと寝ている場面の面白さを伝えたいな。

劇にすると伝わるかな。

はやし立てている場面は、どんなふうに演じるといいかな。



「かちかちやま」

紙芝居が「昔話の本コーナー」にあったよ。

紙芝居を見せながら読むと、1年生が場面の様子を思い浮かべながら聞いてくれるよ。

長いと1年生が飽きちゃうから、最初の部分は読まないことにしよう。

最初の部分は、どんなお話か紹介しよう。



4 音読を工夫しながら、発表の練習をする。

すらすら読めるようになってきたよ。

歌の部分は、みんなで一緒に読もう。

読んでいる人の顔が見える方がいいから、紙芝居をめくると読む人を別の人にしよう。

・話の抜粋や削除については、グループごとに適宜支援する。

◇自分なりの音読の工夫を考え、伝えている。(発言)【読む】

・グループごとに一斉読みをし、全員で内容の確認ができるようにさせる。

・句読点読み、句点読みなど、友達と一緒に音読することで、すらすら読めるようにする。

・1年生に伝わるような音読を友達と交流しながら考えることで、登場人物の行動や場面の様子を想像しながら読めるようにする。

・音読のポイントとなるところは教師と一緒に読むことで、語や言葉の響きに気を付けて音読練習ができるようにする。

・劇で使う小物等を休み時間や家庭で準備してもよいことを伝えておく。

## 2年 <追究する> 3 / 4

(1) 本時のねらい

他のグループとの交流を行い、アドバイスをし合うことで、場面の様子や登場人物の行動を伝える音読の工夫をすることができる。

(2) 準備

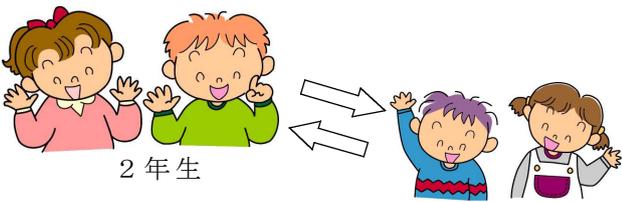
発表の手順

(3) 展開

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童への支援 ◇評価)
<p>1 本時の学習のめあてをつかむ。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">選んだ昔話のよさが1年生に伝わるように工夫しよう</p>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年生に分かりやすく伝えるにはどうすればよいかを問い掛け、登場人物の様子や物語の面白さを伝える工夫を意識できるようにする。</li> </ul>
<p>2 グループごとに音読の工夫を確認し合う。</p> <p style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;">優しいおじいさんだから、優しい感じの声で読もう。</p> <p style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;">「枯れ木に花を咲かせましょう」の台詞は、おじいさんのポチへの思いが伝わるように、ていねいに言おう。</p> 	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>伝える音読に簡単な劇を取り入れることで、登場人物や場面の様子を想像することができるようにする。</li> <li>◎音読のポイントとなる場所は教師と一緒に読むことで、語や言葉の響きに気を付けて音読の練習をできるようにする。</li> </ul>
<p>3 他グループの友達と交流し、アドバイスし合う。</p> <p style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;">歌を入れているのが面白いね。ぼくたちのグループも歌を入れたいよ。</p> <p style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;">おじいさんがポチの灰をまいて花を咲かせるところが心に残った。ポチが死んでしまって悲しいけど、きれいな花が咲いてうれしいおじいさんの気持ちが伝わってきたよ。</p> <p style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;">動きを入れているので、おじいさんの行動がよく分かったよ。恥ずかしがらずに動きを大きくするととってもいいよ。</p> <p style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;">大きな声ですらすらと読めると、お話の中身が伝わるよ。</p>	35	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表時間は5分、交流は2分以内と示すことで、発表リハーサルとかねさせる。また、発表の流れを事前に示し、当日の発表にも自信をもって、自主的に臨めるようにする。</li> <li>全体の場での発表場面を設定し、交流させることで、よさや改善点を共有し合えるようにする。</li> <li>1年生に登場人物の行動や場面の様子が伝わるように音読できているかという視点を示し、互いにアドバイスし合えるようにする。</li> <li>各グループのよかった点を発表し合わせた後、「さらによくするためには」という視点を追加して与えることで、よりよい発表とするためのアドバイスが相互にできるよう、支援する。</li> <li>教師は、各グループに具体的に助言をするとともに、評価を行う。</li> </ul> <p>◇劇や動作を取り入れながら、音読を工夫している。 (音読)【読む】</p>
<p>4 1年生への発表に向けて、見通しをもつ。</p> <p style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;">おじいさんの悲しい気持ちや嬉しい気持ちが伝わってよかった。1年生への発表も心を込めて言おう。</p> <p style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;">おじいさんの行動を1年生に分かってもらえるように、動きをしっかり入れよう。</p>	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達のアドバイスをもとに、自分たちの発表について振り返るよう伝え、客観的に発表を振り返り、本番に生かすことができるようにする。</li> </ul>

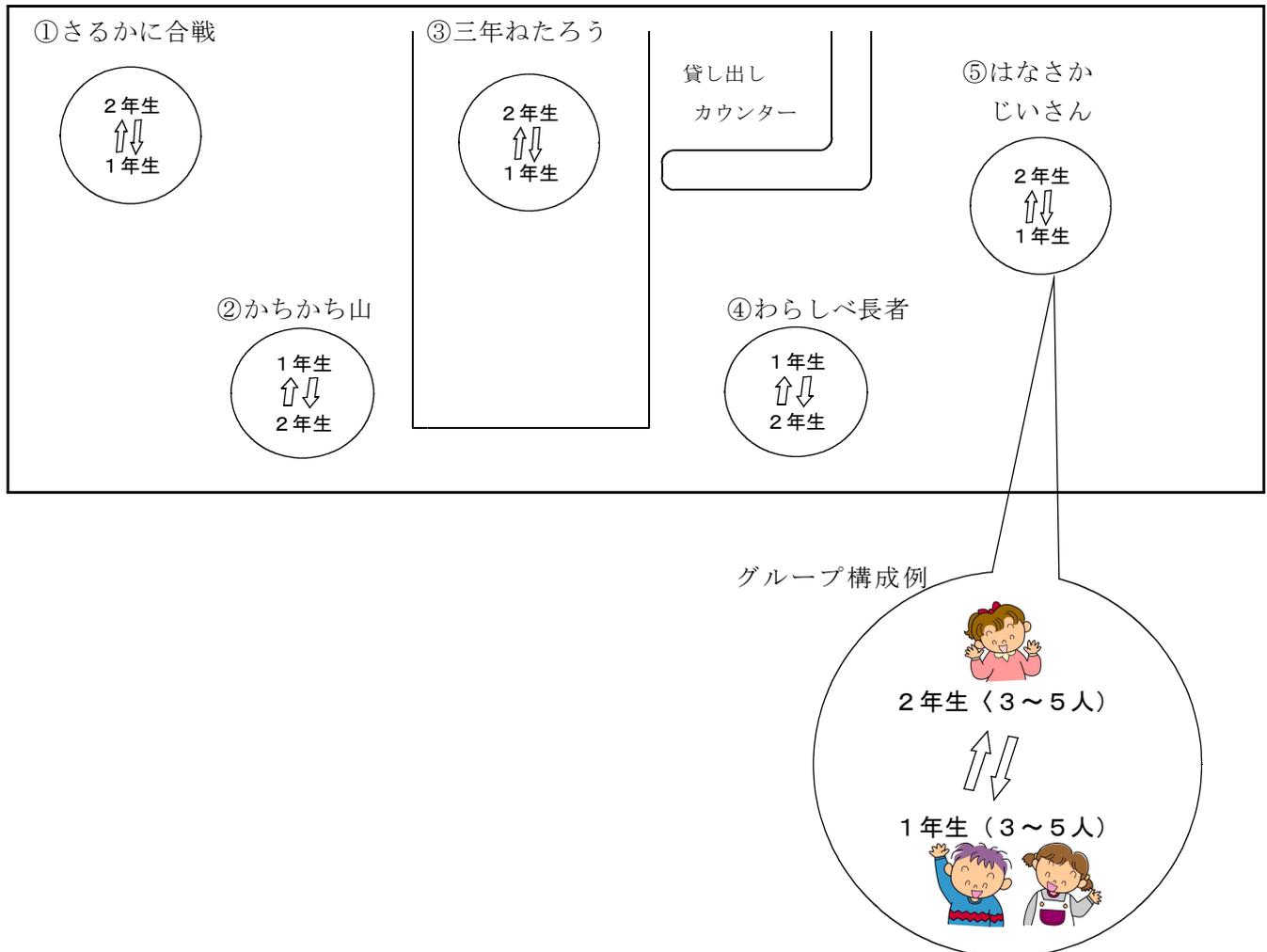
## 2年 <まとめ> 4 / 4

- (1) 本時のねらい  
登場人物の行動や場面の面白さが伝わるように、1年生に音読発表することができる。
- (2) 準備  
選んだ本 発表に必要な資料 CD「にんげんっていいな」 CDプレーヤー  
ワークシート 発表会の流れカード
- (3) 展開

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童への支援 ◇評価)
<p>1 本時の学習のめあてをつかむ</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 10px 0;">お気に入りの昔話を1年生に音読で発表しよう</div> <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px 0;">1年生に分かるように、ゆっくり読もう。</div> <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px 0;">1年生が楽しみにしてくれていてうれしいな。がんばろう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">パビリオン形式</p> <p>発表者の2年生はいくつかのブースに分かれ、同時進行で発表を行っていく。 聞き手である1年生は、グループごとに順番にブースを回り、発表を聞く。 → (P 7 会場図参照)</p> </div>	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入部は1年生担任(1担)とTTで行う。2年生担任は、2年生の指導・支援を行いながら、中心となって授業を進める。</li> <li>・2年生には、お気に入りの昔話の内容を1年生に発表することで、読みの学習のまとめとすることをおさえておく。</li> <li>・音読発表・感想交流をパビリオン形式で行う。音読発表会の流れをあらかじめ1年生担任と共有し、児童にも知らせておく。</li> <li>(1担)：2年生のグループ数に合わせて、グループ分けをしておく。</li> <li>・発表への意欲をもたせ、めあてをつかませる。</li> <li>(1担)：1年生にめあて「2年生の発表を聞いて、感想を発表しよう」をつかませる。</li> </ul>
<p>2 発表をし、感想交流をする</p> <div style="text-align: center;">  <p style="text-align: center;">2年生</p> <p style="text-align: center;">1年生</p> <p style="text-align: center;">&lt;発表の流れ&gt;</p> </div> <div style="border: 1px solid green; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>※音楽を合図に迎えに行く。</p> <p>①音読発表 「これから、〇〇の音読発表を始めます」</p> <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 5px 0;">大きな声でゆっくり読もう。</div> <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 5px 0;">面白いところが伝わるといいな。</div> </div>	35	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽を合図に移動を行う際、2年生が1年生をつれて、グループの発表場所に移動するようにし、相手意識を高める。</li> <li>(1担)：1年生が落ち着いて聞くことができるように、全体を見回り必要に応じて声掛けを行う。</li> <li>◎音読に苦手意識がある児童のいるグループについては、事前に発表の役割等を把握し、支援する。</li> <li>・感想交流では、1年生の感想を聞いたり、補足説明を行ったりすることで、昔話のよさを再確認したり、さらに読みを深めたりできるようにする。</li> <li>・「おはなしにつき」を書く1年生の手伝いをする場を設定することで、音読で伝えたかった昔話のよさを再確認したり、感じ方の違いに気付いたり、読みを深めたりできるようにする。</li> </ul>

<p>②感想交流 「〇〇のお話を聞いて、どんなことを思いましたか。」</p> <p>お話は分かったかな。</p> <p>③「おはなしにつき」の記入を手伝う 「1年生は『おはなしにつき』を書いてください」</p> <p>※音楽を合図に1年生を移動させる。 ・迎えが来るまで待たせておく。 ・次のグループを迎えに行く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちで工夫しながら、音読発表ができたことを賞賛し、個々の自信につなげさせる。</li> <li>音楽が鳴ったら、次の1年生のグループを迎えに行き、発表を行う。</li> <li>一グループ7～10分程度の発表とし、2～3回の発表を行う。</li> </ul> <p>◇登場人物の行動や場面の様子を劇や動作、役割読み等で表しながら音読している。 (音読発表)【読む】</p>
<p>3 単元のまとめをする</p> <p>1年生が楽しみながら聞いてくれて良かった。</p> <p>もっといろいろな昔話を読みたいな。</p>	<p>5</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>まとめは、2年生だけで行う。</li> <li>単元の学習を振り返り、ワークシートに感じたことや考えたことを記述することで、学習の成果を実感できるようにする。</li> <li>後日、1年生からの手紙に返事を書く活動を設定することで、昔話の音読発表を1年生に音読発表したことへの達成感をもてるようにする。</li> </ul>

会場図：図書室（実践例）



# 1年 <つかむ> 1 / 4

(1) 本時のねらい

2年生の音読発表を聞いて、昔話に興味をもつことができる。

(2) 準備

「おはなしにつき」 たんけんバック 鉛筆 色鉛筆 1本

(3) 展開

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童への支援 ◇評価)
<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">2年生の音読発表を聞いて、感想を発表しよう</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">2年生の音読発表が楽しみだな。</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">読み聞かせを聞いたら、お話を聞いて面白いな、好きだな、びっくりしたななど、自分の思ったことを2年生に伝えよう。</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">「おはなしにつき」は、感想を発表した後に書くのだな。</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px;">「おはなしにつき」には、思ったことを書いて、お気に入りポイントをつければいいのだな。</div>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昔話を身近に感じることができるよう、2年生との交流を位置付け、2年生担任とTTで行う。</li> <li>・2年生のグループ数に合わせて、グループ分けをし、グループごとに座らせるなど、場の設定をする。</li> <li>・2年生のめあてを受けて、1年生にめあてをつかませ、意欲をもたせる。</li> <li>・音読発表後、感想を発表したり質問をしたりすることを事前に知らせておくことで、注意して聞けるようにする。</li> <li>・「おはなしにつき」の書き方について説明する。</li> </ul>
<p>2 昔話の音読発表を聞いて、感想を発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">「かちかち山」で、泥の舟が沈むところが面白かったよ。</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">ポチが死んでしまったところは、悲しかった。でも、花が咲いたとき、よかったって思った。</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">うらしまたろうの歌を知っているよ。</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">金たろうって、力持ちだな。</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px;">寝ながらいろいろなことを考えていたねたろうは、すごい。</div> 	30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本の挿絵や紙芝居、ペープサート等を用いるグループも考えられるため、2年生のパピリオン形式での発表を見るという視点でも配置に工夫する。</li> <li>・一人一人の発表を大切に扱うことで、発表しやすい雰囲気作りに努める。</li> <li>・発表してくれた2年生と感想を交流することで、昔話に対する2年生の思いを感じ、昔話を身近に感じられるようにする。</li> <li>◎2年生が音読発表してくれた昔話の「おはなしにつき」をつける際、発表した2年生の助言を得ることで、思ったことを書けるようにする。</li> <li>◎発表に集中できない児童や感想を発表できない児童に、支援を行う。</li> </ul>
<p>3 単元の課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">いろいろな昔話を読んでみたいな。</div> <div style="border: 2px solid black; background-color: yellow; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">いろいろな昔話を読んで、お気に入りの昔話を友達に紹介しよう</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px;">「昔話の本コーナー」にいっぱいあるよ。どの本にしようかな。</div> 	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめの段階は、1年生だけで行う。2年生との交流を振り返らせ、単元の課題をつかませるようにする。</li> <li>・読んでもらった本やその他の昔話を読みたいという意欲が継続するように、教室に「昔話の本コーナー」設置し、紹介する。</li> <li>・お気に入りの昔話や神話・伝承を友達に音読で紹介する言語活動を設定することで、意欲をもって読み取り、想像を広げて読むことができるようにする。</li> <li>◇昔話に興味をもち、意欲的に読もうとしている。 (発言・お話日記)【興・関・意】</li> </ul>

# 1年 <追究する> 2 / 4

(1) 本時のねらい

友達との交流を通して、読みたい昔話を自分で見付けて読むことができる。

(2) 準備

1年生の教科書 P33 ～ 36 の拡大カラーコピー 昔話の挿絵

おはなしにつき 「昔話の本コーナー」

(3) 展開

学習活動 予想される児童の反応		指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童への支援 ◇評価)
<p>1 本時の学習のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">昔話を読んで、「おはなしにつき」を書こう</div>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書 P33 ～ 36 に掲載されている昔話の中から、2年生が発表したお話を見付け出したり、他の話を紹介し合うことで、昔話に興味をもてるようにする。</li> </ul>
<p>2 昔話について友達と交流し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px 0;">2年生が発表してくれた「三年ねたろう」を自分で読んでみよう。</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px 0;">私は「したきりすずめ」を読みたいと思いました。お話は聞いたことがあるけれど、読んだことがないからです。</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px 0;">私は、「うさぎとかめ」を読みたいと思います。歌を知っているから、読んでみたいと思いました。</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px 0;">〇〇さんが話していたお話の続きが読みたくなりました。</div>	15	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書 P33 ～ 36 の拡大カラーコピーと昔話の挿絵を活用することにより、読みたい昔話を見付けることができるようにする</li> <li>話の内容を知っている児童に発表させたり教師が簡単に説明することで、読みたい昔話を見つけることができるようにする。</li> <li>読みたい話を発表する際は、選んだ根拠とともに伝えさせ、読もうとする意欲を高めることができるようにする。</li> </ul> <p>◎決めかねている児童には、教科書 P33 ～ 36 に掲載されている昔話を示し選書しやすくする。</p>
<p>3 昔話を読む。</p> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px 0;">2年生が読んでくれた本があるよ。自分でも読めるかな。</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px 0;">「ぶんぶくちやがま」って、上毛かるたに出てくるよ。どんなお話かな。読んでみよう。</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px 0;">〇〇さんの読んでいる本がおもしろそうだな。次、借りて読もう。</div>	25	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書 P33 ～ 36 に掲載されている昔話の本コーナーを教室内に準備しておくことで、読みたい本を自分で見付けて読むことができるようにする。</li> <li>学級文庫や図書室の本の他、公立図書館からの団体貸し出しを利用し、人数分以上の本を準備することで、児童の選択の幅を広げる。</li> </ul> <p>◎読みたい本が見付からない児童には、「昔話の本コーナー」で一緒に本を手に取りながら探すことで、見付けられるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1冊読み終えるごとに「おはなしにつき」に記入させることで、友達に紹介する本を選ぶ際に活用できるようにする。</li> </ul> <p>◇昔話に興味をもち、読みたい昔話を見付け、読んでいる。(発表・お話日記)【興・関・意】</p>
<p>3 本時の学習を振り返り、次時の学習への見通しを持つ。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px 0;">「昔話コーナー」の本をもっと読みたいな。</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px 0;">図書室に行って、昔話を借りて読もう。</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px 0;">友達に教えてあげるのが楽しみだな。</div> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  </div>	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝活動の時間や「読書の時間」などを活用し、昔話を読み、「おはなしにつき」の記入を進められるようにする。</li> </ul>

(1) 本時のねらい

好きな昔話の好きな場面の音読を友達と交流することで、好きな場面の様子を想像を広げて読むことができる。

(2) 準備

「昔話の本コーナー」

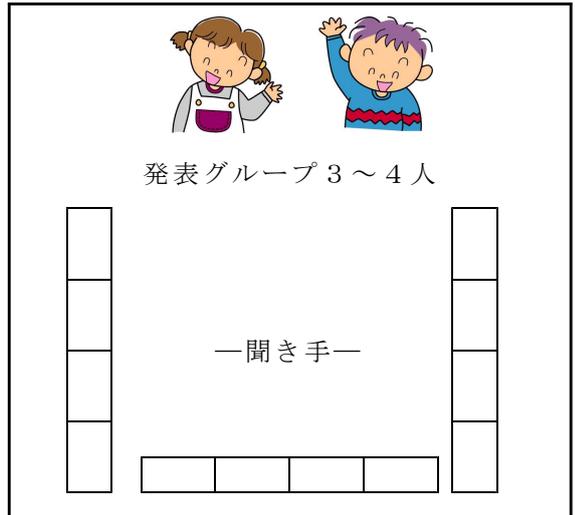
おはなしにつき

(3) 展開

学習活動 予想される児童の反応		指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童への支援 ◇評価)
<p>1 本時の学習のめあてをつかむ。</p> <p>友達に紹介する昔話を選び、音読の練習をしよう</p>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>今まで読んだ昔話の中から選べるように、「おはなしにつき」を準備しておく。</li> </ul>
<p>2 友達に発表する昔話を選び、音読の練習をする。</p> <p>お気に入りポイントを三つ付けた作品にしよう。</p> <p>「かさじぞう」のまぶしいお宝が積み上げられているところを読もう。あったらいいなと思ったことを伝えよう。</p> <p>「ぶんぶくちやがま」が「あちっちあちあち」という場面にしよう。面白い感じが伝わるように読めるといいな。</p>	17	<ul style="list-style-type: none"> <li>「おはなしにつき」につけたお気に入りポイントを参考にすることで、発表する昔話を一つ選ぶことができるようにする。</li> <li>◎音読する範囲を、選んだ昔話の特に好きな場面のみでの発表と限定することで、練習の負担を減らし、音読練習の時間を十分確保できるようにする。</li> </ul>
<p>3 友達と交流する。</p> <p>&lt;発表の仕方の例&gt;</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>ぼくの・わたしの おきにいりのほんは、 『 』です。</p> <p>なぜかというと、 ○○○○のところ が すきだ おもしろい からです。 たのしい</p> <p>とくにすきなばめんを おんどくするので きいてください。</p> </div> 	20	<ul style="list-style-type: none"> <li>3～4人のグループになり、個々に自分の選んだ昔話を発表させることで、全体の前での発表に向けて自信をもてるようにする。</li> <li>◎発表の仕方の例を示すことで、全員が自信をもって発表できるようにする。</li> <li>発表には「おはなしにつき」に記入した「思ったこと」を活用できるようにする。</li> <li>◇お気に入りの昔話の特に気に入りの場面をグループの友達に発表している。 (発表・お話日記)【読むこと】</li> </ul>
<p>4 本時の学習を振り返り、発表への意欲をもつ。</p> <p>みんなにも「ぶんぶくちやがま」の面白さが伝わるといいな。</p> <p>みんなは、どんな昔話が気に入ったのかな。発表が楽しみだな。</p> 	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループの友達への発表を賞賛することで、次時でのクラス全体への発表に自信をもって臨めるようにさせる。</li> </ul>

# 1年 <まとめ> 4 / 4

- (1) 本時のねらい  
お気に入りの昔話を友達に音読で紹介することができる。
- (2) 準備  
選んだ本  
2年生へのお手紙用紙
- (3) 展開

学習活動 予想される児童の反応		指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童への支援 ◇評価)
<p>1 本時の学習のめあてをつかむ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">お気に入りの昔話をクラスの友達に紹介しよう</div>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達との交流を位置付け、個々に選んだ昔話のお気に入りの部分の音読発表をしようことで、いろいろな昔話に触れ、感じ方の違いに気付いたり、読みを深めたりできるようにさせる。</li> </ul>
<p>2 お気に入りの昔話を音読で紹介し合う。</p> <div style="text-align: center;">  <p>興味をもってくれるといいな。</p> <p>〈発表の場〉</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;">  <p>発表グループ 3～4人</p> <p>—聞き手—</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 5px 0; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;">○○さんの選んだ場面はおもしろいな。</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 5px 0; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;">○○さんが音読してくれた昔話を読みたいな。</div> </div>	30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に交流したグループごとに前に出て順番に発表する形態とすることで、見通しをもって発表に臨めるようにする。</li> <li>・聞き手同士の顔が見えるような机の配置とすることで、友達の発表をみんなで聞き合える雰囲気を作れるようにする。</li> <li>・児童が音読した部分を全員で音読させたり、挿絵を紹介したりすることで、聞き手が集中して聞けるようにするとともに、常に叙述を意識させるようにする。</li> </ul> <p>◎発表の仕方を示した定型文を掲示しておくことで、安心して発表できるようにする。</p> <p>◇お気に入りの昔話の特にお気に入りの場面を音読で紹介している。 (発表・お話日記)【読むこと】</p>
<p>3 単元のまとめをする</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>2年生のお兄さん、お姉さんへ 音読を聞かせてくれてありがとう。ぼくは、2年生が読んでくれた「かさじぞう」が好きになり、自分でも読んでみました。他にも、昔話の本を5さつ読みました。 ぼくは、「うらしま太郎」の本をみんなに紹介しました。お土産の箱を開けたら、おじいさんになってしまったところがびっくりしたからです。 ぼくの発表の後、みんなで「うらしま太郎」の歌を歌いました。 これからも、いろいろな昔話の本を読みたいです。</p>	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「つかむ」過程で、音読発表をしてくれた2年生に、自分たちの音読発表での活動を報告する手紙を書くことで、学習を振り返るようにする。</li> </ul>